

KAFM-WJ 027

アーバンスポーツパーク ～その成立の条件とは  
- 経済性か 社会性か -

経営管理研究部 観光経営科学コース

長尾 瑞恵・前川 佳一

2023年 3月 21日



題目：

アーバンスポーツパーク ～その成立の条件とは  
経済性か 社会性か

提出日：令和5年2月10日

入 学 年	2020 年
学 生 番 号	7530-32-3681
所属プログラム	サービス&ホスピタリティプログラム 観光経営科学コース
氏 名	長尾 瑞恵
WS 担当教員氏名	前川佳一特定教授

## 目次

1. はじめに	3
2. 背景と目的	3
2.1 若者のスポーツ離れ	
2.2 アーバンスポーツの課題	
2.3 研究の目的	
2.4 先行研究	
3. 研究の方法と対象	6
3.1 調査対象サンプル	
4. 研究：《インタビュー》：4パーク訪問調査	6
4.1 (A) ムラサキパーク東京(東京都足立区)	
4.2 (B) 境町アーバンスポーツパーク(茨城県猿島郡境町)	
4.3 (C) ムラサキパークかさま(茨城県笠間市)	
4.4 (D) 火打形公園(京都市南区)	
4.5 《インタビュー》結果に対する考察	
5. 研究：《データ分析》：518施設のパークスペック分析	14
5.1 1パークあたりの人口比較	
5.2 パークが必要な地域	
5.3 518施設を4グループに分類	
5.4 セクションの種類	
5.5 参考となるファンディングの例	
5.6 調整池や高架下の多目的利用	
5.7 《データ分析》結果に対する考察	
6. 研究：《アンケート》2004年公共パークアンケート調査と2023年調査の比較	19
6.1 パークの基本属性に関して	
6.1.2 設置数の経年推移	
6.1.3 施設面積	
6.1.4 駐車場台数	
6.1.5 設置セクション数	
6.1.6 施設の分類	

6.2	パークの利用に関して	22
6.2.1	利用可能種目	
6.2.2	平均利用者数	
6.3	パークの設置に関して	23
6.3.1	パークの設置理由	
6.3.2	パーク計画段階での事前活動	
6.3.3	敷地決定要因	
6.3.4	管理・運営側からの施設立地評価	
6.3.5	“公共性”への拠り所	
6.3.6	管理・運営側が感じる“公共事業”としての評価	
6.3.7	新たな事業	
6.4	《アンケート》結果に対する考察	27
7.	まとめ	29
7.1	本研究の限界	
7.2	独自の貢献	
	参考文献	32
	別添資料 1：「アーバンスポーツパークに関する調査(2023)」公共パークアンケート質問内容	
	別添資料 2：2004年アンケート結果一覧「スケートパークの立地及び地域施設としての特性に関する調査・分析－アンケート調査結果の概要－」（伊與田・坪井 2004）	
	別添資料 3：2023年 公共パークアンケート《その他の少数回答一覧》	
	別添資料 4：セクションの種類	
	別添資料 5：全国 518 パークスペック一覧	

## 1. はじめに

東京 2020 オリンピックで、アーバンスポーツ 3 種目(スケートボード、スポーツクライミング、BMX パーク)が採用された。一般的にアーバンスポーツとは、激しくきわどいパフォーマンスで目を引くエクストリームスポーツの中で、「都市での開催が可能なもの」がこう呼ばれる。しかし Wheaton によれば「これらのスポーツを表現するための用語についての論争は継続中」<sup>1)</sup>で、「オルタナティブスポーツ、ニュースポーツ、エクストリームスポーツ(中略)、ライフスタイルスポーツ」<sup>1)</sup>など、依然としてさまざまな名称で呼ばれているが、本稿では、アーバンスポーツという呼称を使用する。また、これらのスポーツを行える場所として認められている場所は、おもに許可されているスポーツの名前を冠して「スケートボードパーク」や「BMX パーク」などと呼ばれていることが多いが、複数のアーバンスポーツを行えるパークの割合が高いため、このような場所を、本稿では総じて「アーバンスポーツパーク」と定義する。また、アーバンスポーツパークには、プレーヤーが使ってトリック(技・アクション)を繰り出すために使用する、様々な素材で設計デザインされ固定設置された大型造形物、あるいは、別途制作され設置された可動造形物があるが、これらをセクションと呼ぶ。

アーバンスポーツは、もともと遊び感覚で行われ広まってきたもので、音楽やファッションなど、若者文化とともに進化するスポーツと認識されている。種目としては、前出の 3 種目のほか、パリ 2024 オリンピックで正式種目となるブレイキン、インラインスケート、スラックライン、パルクール、トランポリン、3×3 などが代表的な例である。

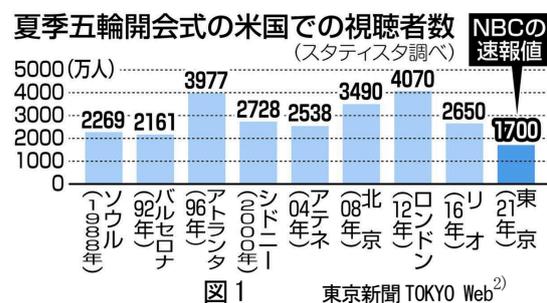
ではなぜ、近年、特に若者に人気のアーバンスポーツが、オリンピック種目に選ばれ続けているのだろうか。

## 2. 背景と目的

### 2.1 若者のスポーツ離れ

オリンピックでアーバンスポーツが続々と採用されるようになった背景には、若者のオリンピック離れ、スポーツ離れがあると言われている。

図 1 は、2020 東京オリンピック開会式についてのアメリカにおける視聴者数が、ソウル五輪



以降最低であったことを示す。また、Wheaton は、「ESPN の X ゲームズは、2003 年までに、[第 1 回大会の]開幕(1995)以降、10 年足らずで 5000 万人ものグローバルな視聴者を」<sup>2)</sup>獲得した一方、「高齢化しているオリンピックの視聴者とは違って、X ゲームズの視聴者の平均年齢は 20 歳」<sup>1)</sup>で、「若者のオリンピック視聴者は着実に減少しており(Thorpe and Wheaton, 2011a, 2011b),

(北米で)ビッグ3と称されるアメリカンフットボール、野球、バスケットボールのテレビ放映の契約では、北米のテレビネットワークに数10億ドルもの損失をもたらした(Booth and Thorpe, 2007c:190)」<sup>1)</sup>と指摘している。「アメリカの放送局NBCでは、2016年リオ大会のプライムタイム(19時~23時)における視聴率は2012年ロンドン大会に比べ17%減少し、18歳~49歳の視聴層では25%も減少。今回の東京大会も、リオ大会に比べると視聴者数は51%減ったという」<sup>2)</sup>

ミレニアル世代やZ世代を筆頭に、スマホでオンデマンドに移行しているデジタル発達が遠因か、スポーツ庁調査 図2「世代別週1日以上スポーツ実施率の比較」に見られるように、我が国においても「若年層のスポーツ離れ」が見られる。(10代は20代~50代より実施率が高くなっているが、授業や課外活動での運動が含まれると思われ、実際にはこの世代も74.1%が運動不足を感じている)さらに、図3にあるように、スポーツを行おうにも、スポーツ施設自体の数も減少傾向にある。

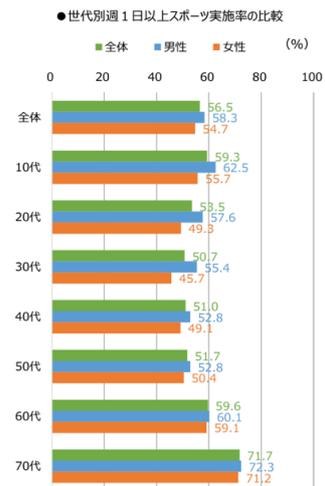


図2<sup>4)</sup> スポーツ庁



図3<sup>4)</sup> スポーツ庁

## 2.2 アーバンスポーツの課題

2020年、主に北海道在住の20代から40代の570名(男性426名、女性144名)に対し行われた「アーバンスポーツとの関係に関する調査」によると、アーバンスポーツを行う上での課題として62%の人が「実施できる場所・専用施設が少ない」ことを挙げている。アーバンスポーツは、もともとストリートで行われていたスポーツであり、野球、サッカーやバスケットボールなどのように決められたサイズのフィールドで行うものではない。施設整備にあたり、制約条件として都市公園法や都市計画法等の関連法など目立った制約はなく、規模やパークデザインには自由度があり、小規模や変形の未利用地にも設置しやすいことがあり、近年アーバンスポーツパークの数は増加している。しかし、利用したい人のニーズを満たす施設は少ないと言わざるを得ない。アーバンスポーツ界で、日本人選手は東京2020オリンピック以降も引き続きめざましい活躍をみせている。アーバンスポーツはまだまだ総じて競技人口が少なく、アーバンスポーツという言葉そのものの認知度も低い。日本人は多くの外国人に対し、パワーや

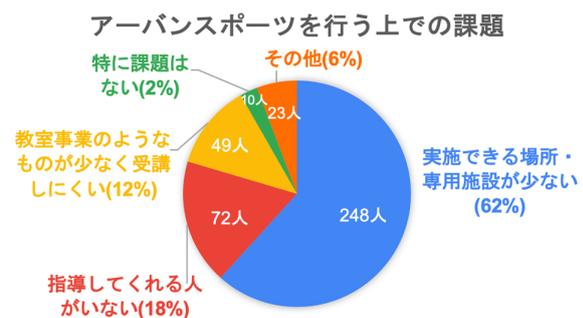


図4<sup>5)</sup>

体格では劣っていることが多い。しかし、アーバンスポーツと呼ばれる競技は、パワーや体格がファーストプライオリティで必要な競技ではない。器用さや柔軟性など、日本人の特性を生かすことができるスポーツである。しかし、競技人口はまだまだ少ない。理由としては、まず第一に身近な練習場所が不足しており、アーバンスポーツに触れる機会が少ないことがある。競技者は練習や競技会のため、遠距離の自動車移動を日常的におこなっていると聞く。第二に、指導者不足、第三に、競技会が開けるレベルの施設が少なく、テレビ放映も少ないことから、身近でトップレベルのスキルに触れる機会がないこと、スキルアップへのモチベーションをもつ機会が少ないことがある。

## 2.3 研究の目的

そこで、本研究の目的は、次のように設定する。

「国際大会が開催できるような、国際基準を満たした設計を持つ大規模パークの活用と、現在国際レベルパークが存在していない地域に新規設置を行い、国内・国際大会開催を各地に誘致することにより、アーバンスポーツをやっていない人、興味がなかった人に、まず実際に見るスポーツとしての楽しさを知ってもらうことができるのではないか。競技者と観戦者を、アーバンスポーツを『やる』・『見る』スポーツツーリズムに繋げる。アーバンスポーツの競技者人口増と競技レベルアップ、ひいては地域の活性化を目指すことができるのではないか」

と仮定し、現在アーバンスポーツを行うことができる国内施設の現状を調べ、可能性と課題を探り、仮定を検証する。また、スポーツ競技人口が減少傾向にある今、「経済的に成功する民間施設として」、「社会的意義がある公共施設として」あるいはさらに別の形で、アーバンスポーツパークを成立させる条件とは何かを導くことを目的とする。

## 2.4 先行研究

アーバンスポーツパークの現状や特性、アーバンスポーツに関する先行研究としては、福永らの「利用者行動から見たスケートパークの建築計画学的研究」<sup>4)</sup> や、伊與田らによる「スケートパークの立地及び地域施設としての特性に関する調査・分析—アンケート調査結果の概要—」<sup>5)</sup>、河崎による「日本におけるスケートパークの現状について」<sup>6)</sup>などがある。1番目の研究は利用者に、2番目は全国の公共パークに、それぞれアンケート調査を行い、結果を考察するという手法が採られている。しかしながら、いずれも今から約20年前に行われたアンケートであり、現状を表しているとは言えない。本稿で取り上げた現在の全国にある公共パークに対するアンケート調査研究はまだ見られない。また3番目については、NPO法人による調査であり、パーク名などは非公開となっている。また橋本らの「アーバンスポーツツーリズムのニーズに関する分析：Webア

ンケートによる調査」<sup>3)</sup>については、比較的限られた地域（北海道中心）で、アーバンスポーツを認識している人を対象に行われたアンケートであるため、より広い範囲での調査が望まれる。

### 3. 研究の方法と対象

国内アーバンスポーツパークの実態調査を、次の「インタビュー」、「データ分析」、「アンケート」の3手法で行う。

#### 3.1 調査対象サンプル

《インタビュー》は、実際にパーク4ヶ所を訪問した。

次に、アーバンスポーツを行うことができる国内施設の現状を調べるためインターネットの検索サイト「国内最大級スケートパーク検索サイトスケパ」<sup>7)</sup>に掲載されていた687件(2022年12月10日現在)のパークを調査対象サンプルとし、《データ分析》を行った。

さらに、2004年に行われたアンケートを元にした先行研究である「スケートパークの立地及び地域施設としての特性に関する調査・分析—アンケート調査結果の概要—」<sup>8)</sup>と同内容のアンケート調査を行い、2023年結果と比較する。前出687サンプルを一定条件の元に絞り込み、そのうちの公共パーク257サンプルを管理運営する自治体に対し、2022年12月27日から《アンケート》を行った。

### 4. 研究：《インタビュー》：4パーク訪問調査

2022年7月と2023年1月、実際にパーク4ヶ所を訪問し、インタビューを行った。

- (A) ムラサキパーク東京（東京都足立区）経営ムラサキスポーツ
- (B) 境町アーバンスポーツパーク（茨城県猿島郡境町）指定管理者ABCプランニング
- (C) ムラサキパークかさま（茨城県笠間市）指定管理者ムラサキスポーツ
- (D) 火打形スケートボードパーク（京都市南区）京都市 街区公園

(A)～(C)は様々な経営形態、立地、パーク素材などが様々な大規模パークである。(D)は市街地の街区公園にある(A)～(C)に比べれば小規模の市営パークである。

#### 4.1 (A) ムラサキパーク東京

##### ・立地と集客状況

ムラサキパーク東京は、京成線関屋駅からほど近い、東京都足立区アメージングスクエア内にある、スケートボード・BMX、インラインスケートが行えるムラサキスポーツ経営の民間施設である。(ムラサキスポーツは、東京2020スケートボード日本代表監督西川隆氏所属先)敷地内にこれらの競技用ギアやウェア、さらにはスノーボードやサーフィン用具も販売するフルスペックショップとスクールを併設している。パークでそれらのギアを使ってもらうことが主目的で運営し

ている。駅から至近距離に位置し、駐車場もあり、アクセスが良いため、年間38,000人の利用者が半径100km位から集まる施設である。土日は子どもたちも多く来場する。

#### ・騒音問題は

アメージングスクエアは東京製鐵創業の地約1万坪に1987年開園された遊園地の名称である。

遊園地閉園後は、ムラサキパーク東京をはじめ、日本交通営業所、釣り堀、インドアフットサル場（ミズノ）、シティカート、バッティングセンターなどが集まっている。川と鉄道に挟まれた調整地のため、半径数百メートルに近接した民家は少ない。これにより、通常営業時の騒音はほぼ問題がない。かつてイベント開催時にPAシステムを通したMCや音楽が入り、音へのクレームが入ったことがあるが、以来、大きなイベント開催の際は、事前に近隣ポスティングし周知するなど、地域住民との関係づくりを行なっている。



図5 ムラサキパーク東京 屋内パーク (筆者撮影)

#### ・パークの特徴・素材・セクション



図6 ムラサキパーク東京 スカイツリーとパーチカル これだけのサイズはなかなかない (筆者撮影)

ムラサキパークは、2009年4月よりムラサキスポーツが運営している。もともと1996年インラインスケートでスタート、1997年からBMXとスケートボードの利用が可能になった。世界基準の14ftパーチカルランプ(セクション)は、中央から東京スカイツリーが臨める。広々とした屋外スケートパークは、初心者から上級者まで楽しめる「フラットスペース」から「BMXエリア」「インラインスケートに適した大型セクションパーク」、人気「ミニランプ」も完備している。また、約1000平米の東京23区内最大級の屋内パークがあり、様々なセクションを設置、音響システムを完備し、数々の国内コンテスト(競技会)を始め、大型イベント、ドラマや映画撮影などでも利用されている。屋内設置後、利用者は3倍になっている。ここでは、コンクリートの床に、セクションは、鉄構造にスケートライトのサーフェス(米国Richlite社販売。スケートランプ専用素材。滑りが良い、肌を擦り難い、燃え難い、腐らない、薬品に強いといった利点がある。ムラサキパーク東京では2~3年の耐用年数とのことである)を貼ったものが使われている。

#### ・スクールおよび展望

初心者が入りづらい雰囲気や環境にならないよう、定期的にスクールを開催し、後進を育てて

ている。2028ロスアンジェルスオリンピックでも引き続きスケートボードが正式種目に選ばれたため、確実にこのスポーツは注目され続けるであろう。今後このスポーツをより発展させ、パークを存続させるために今なにをすべきか考えて運営したいとのことで、そのためにはまず指導者の育成が重要であり、併せて、施設の価値を上げていくことが必要であると考えているとのことである。また、今後、温暖化と豪雨が増えるであろうことを考えれば、「空調付き屋内施設」は必須となってくるだろうとのことであった。

(2022年7月5日インタビュー実施：インタビューイヤー＝株式会社ムラサキスポーツ マーケティング部スケートパーク企画室 室長 W様)

## 4.2 (B) 境町アーバンスポーツパーク

### ・「スポーツを核としたまちづくり」と特徴あるファンディング

茨城県猿島郡境町は、地方創生関係交付金活用や施設運営に民間ノウハウを導入し、「スポーツを核としたまちづくり」を進めている。特にふるさと納税特設ECサイト開設など、獲得にさまざまな努力を続け、2014年に3,000万円であったものが、2021年には関東トップの48億円となっている。このふるさと納税や交付金・

補助金などを原資とし、境町には、いずれもオリンピック基準でオリンピック事前キャンプ地(内閣官房ホストタウン事業交付金)となった、テニスコート(屋外2面・屋内2面、totoスポーツ振興くじ助成金で照明整備)、ホッケー場(オリンピック

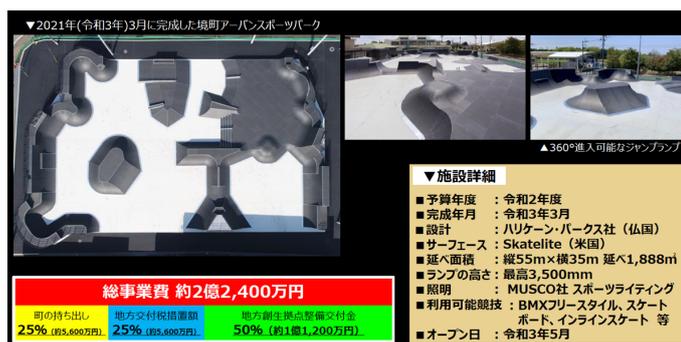


図7 境町アーバンスポーツパーク<sup>11)</sup>

基準のウォーターベース人工芝) や、柔道場、人工芝サッカー場 (totoスポーツ振興くじ助成金で人工芝化) , 等々、さまざまなスポーツ施設があり、日本代表レベルをはじめとする様々な団体に利用されている。境町アーバンスポーツパークもそのひとつである。さらに、「境町アーバンスポーツパークの隣に、東京オリンピックから正式種目となり、8位以内に入賞するなど男女ともに若手選手の活躍が目覚ましい BMXの専用施設を増設する。本施設は、東京オリンピック・パラリンピックの競技で実際に使用された施設を移設するものであり、オリンピックエンブレムが利用可能であるうえ 2024年パリオリンピックに向けナショナルトレーニングセンターとしても活用可能な高水準の施設である。」<sup>8)</sup>

境町では、これらのスポーツ施設を町の持ち出しを最小限に抑え、企業版ふるさと納税やさまざまな助成金の活用で整備している。施設の管理運営においても、複数の施設をまとめて指定管理者に委託し、これによりひとつひとつの必要な管理経費も分割され、かつ、町は管理費を負担していない。

#### ・パークのスペックやアクセス

パークは東京駅から高速バス直通で約80分でアクセスできる。関西圏からは、成田までLCC利用すれば、バスでそこから1時間である。周辺環境は、南側に体育館、東は歴史博物館、西に空き家が1軒と、騒音問題は発生しにくく、夜間照明の光害に関しても、エリアを限って明るくすることができるアメリカメーカーのアンチグレアスポーツライティングを採用することで光害を軽減している。パークの施工は、フランスのハリケーン社が行い、プレーヤー目線でデザインされており、高さのあるランプ(セクション)や、セクション表面の細かい角度変化などが実際に滑りに来た利用者から「滑っていて面白い」と評価されている。ハリケーン社の常設パークは、ここが日本初である。サーフェスはスケートライトであり、1番の利点は濡れても乾きが早いので、大会開催時の降雨による時間ロスが、コンクリートに比べ少ないことである。境町はオープン2年であるが、日頃はスケートライトを留めているネジを締め直すくらいで、これまで大きな補修は必要なかった。また、コンクリートパークではできない、今後のフレキシブルさもある。ただ、耐用年数に関して、屋外設置であることや、日本の気候を考えると、公称10年のところ、半分くらいになるかもしれないと予想している。パークには、初心者から上級者に対応できるよう、フラットスペース、さまざまなセクション、大きなバーチカルランプなどがあり、いろいろなレベルに対応したスクールを開催し、アーバンスポーツの地元普及をめざしたい。そのため、JFBF(全日本フリースタイルBMX連盟)国際審判員でもある稲葉選手と、インラインスケート世界チャンピオンの安床選手を地域おこし協力隊員として招聘、指導に当たってもらっている。

(2022年7月6日インタビュー実施：インタビューイヤー＝指定管理者ABCプランニング株式会社  
CMO H様、コンサルタント A様、インラインスケート世界チャンピオン 安床 武士様)

### 4.3 (C) ムラサキパークかさま

#### ・整備の経緯、周辺環境、利用状況

ムラサキパークかさまは、笠間芸術の森公園内の未開拓園地(山林)活用を第一目的に開発された。公園内にある「あそびの杜」来場者は年間12万人あり、当初は開発方法としてフィールドアスレチックや遊具を設置する案もあった。が、若者集客に力を入れるため、スケートボードパークが提案されたものである。経営主体および整備は茨城県、管理棟・屋内施設は笠間市で管理整備している。指定管理者およびパークネーミングライツはムラサキスポーツが獲得、現地にてショップ・スクールを運営している。平日30名、休日100～120名、年間16,000名の来場者があり、利用者構成は、笠間市内1割、茨城県内7割、県外1割である。

笠間芸術の森公園内や付近には、大型複合遊具やふわふわドームがある、前出の「あそびの杜」のほか、年間を通してさまざまなイベントが開催されるイベント広場、野外コンサート広場、陶製オブジェが点在する「陶の杜」、茨城県陶芸美術館、笠間工芸の丘クラフトヒルズ、茨城県立笠間陶芸大学校、日動美術館などがある。公園全体では55ha、パークエリアのみで約25,000平

米、スケートパークは、裏のBBQエリアも含め4,600平米である。パークゾーン、ストリートゾーン、フラットゾーンはフルコンクリートで、排水口が設けてあり、下の暗渠を通過して外に排水される構造となっている。



図8 ムラサキパークかさま 中央の白い建屋は屋内パーク。向こう側にBBQエリア、左がショップ(屋上から観覧可能)。周囲の緑土手は、大会開催時観覧席となる。(筆者撮影)

施工はマサケンで、特にR部分は専門プロでないとできない匠の技が生きている。フルコンクリートパークのため、表面にクラックが発生するので、都度補修が必要である。屋内競技

場は、県の要望により基本的には屋内の構造物(セクションなど)は、すべて木製で撤去できるものが設置されており、床はすぐにフラットに戻し、使用できる状況となっている。これは災害時などの特別時対応をこの場所で可能にするためである。屋内施設セクションの耐用年数は、約10年ほどと想定している。駐車場は、笠間芸術の森公園内東駐車場(パーク隣接)に大型バス用3台、普通車33台がある。パークゾーンには夜間照明がある。(現在のところ、全国の常設アーバンスポーツパークでは観覧席となるものを備えているところはあまり無いが、ここは周囲の土手を観覧席として利用することが可能となっている。筆者注)

#### ・指定管理者

このパークではスケートボード、BMX、インラインスケートが行える。ここでは、利用者にムラサキスポーツの担当者が、都度きちんと利用ルールを説明している。滑走時間中は、常時スタッフ1名が監視しているため、異競技の混在が可能となっている。管理者がちゃんとしていれば、複数競技の混在は可能であり、これまで問題はなかった。こういったところは、行政だけで運営しては、うまくいかなかったと思われる。スクールは現在週末(土日)のみ、1日に2回開催している。指定管理者ムラサキスポーツ側の工夫で、スケートパークまわりのアスファルト部分を使つての超初心者指導もおこなっている。スケートボードは15人定員で、参加者は、4歳くらいから小学生が多い。BMXは定員10名で開催しているが、BMXの専門知識ある指導者不足が課題である。ムラサキスポーツでは、選手がスポーツで食べていけるよう、接客指導から行っているとのこと。このように、選手が指導者として生計を立てられるしくみづくりが全国的に考えられたらよいだろう。

パークにはムラサキスポーツ経営のショップが併設され、スケートボードやBMXグッズ、ギア、

ウェアなどを販売，購入時のアドバイスやメンテナンスも行なっている。ショップは受付やクラブハウスとしても機能している。ムラサキパークかさまのオリジナルグッズも制作され，ふるさと納税返礼品として採用されている。パークロゴ入りウェアも置いている。

パークは笠間市が管理し，指定管理者はムラサキスポーツである。計画段階において，このスポーツに関し，市側には知識が無く，国際基準等もわからないので，オープン後もムラサキスポーツが運営に携わる前提で，設計前からムラサキスポーツに入ってもらっている。実際の運営者の意見を取り入れて設計したことは良かったと考えている。

### ・笠間スポーツコミッションの活動内容



図 9<sup>13)</sup>

だが，指定管理者に全部任せただけではなく，笠間市では，市と笠間市スポーツ協会等の関係機関により，スポーツを活かしたまちづくりを推進するため，新たな公民連携組織として「笠間スポーツコミッション」を設立した。スポーツコミッションは，地方公共団体，スポーツ団体，民間企業

等が一体となり，スポーツを通じた持続的なまちづくり・地域活性化に取り組む組織である。今後はスポーツコミッションを中心に，笠間芸術の森公園に整備した「ムラサキパークかさま」をはじめとする市内スポーツ資源を活用した大会誘致，合宿誘致などを展開し，地域振興を図る。その一例として，東京2020ではフランス代表スケートボードチームの事前合宿地として誘致に成功している。

日本国内の大きな大会を1回開催している。2021年12月11日～12日「ワールドスケートジャパン第4回日本スケートボード選手権大会Kasama City Cup」兼「2022年アジア競技大会選手権選考大会」兼「2021年ワールドスケートジャパン強化指定選手選考大会」Powered by Murasaki Sports（主催：一般社団法人ワールドスケートジャパン 特別協賛：笠間スポーツコミッション，株式会社ムラサキスポーツ）&サブイベント「ムラサキスポーツ アウトドア&スケートボードフェス」を開催した。アウトドアとスケートボードに関連するブランド約15社がブランドブースを出し，アクティビティや体験イベント，スケートボードやBMXの楽しさに触れていただくために，

誰でも無料で参加できるスケートボードとBMXの体験会を実施した。その他、ムラサキスポーツによる季節イベントを開催している。初心者から上級者、子どもからプロレベルまで、様々なカテゴリー（レベル）の大会開催をめざす。

遠く関西から「かさま」まで、大会参加のため2週間くらい、周辺のウィークリーマンションなどを利用し泊まり込みで来る選手もいる。関西は選手層が厚く、コンペティターが多く、また総じて大会機会を求めている印象である。

課題としている点は、二次交通と宿泊施設である。遠方から車で来る人もおり、車中泊もしている模様。BMXコース等、プラスアルファの付帯設備が欲しいと考えている。園内滑走禁止しているわけではないが、車道は滑走禁止としている。

(2022年7月6日インタビュー実施：インタビューイヤー＝笠間市 都市建設部 都市計画課 主査F様、主幹 N様、地域おこし協力隊[スケートボード担当] O様)

#### 4.4 (D) 火打形公園

##### ・ 設立経緯と周辺環境

火打形公園は、京都駅から南方3kmの桂川と鴨川の合流点に位置する上鳥羽南部地区の土地区画整理事業によってつくられた1万平米の街区公園である。当該地は北側は住宅地であるが、東と南は鴨川、西は工場群に囲まれているため、その一部(1065㎡)をスケートボード専用施設の設置候補地とし、京都市側から、京都でスケートボードのイベントや大会を行っていたグループの責任者に相談が持ち込まれたのが、このパークの始まりであった。京都スケートボード協会が組織されたのはこれより後のことになる。

それ以前、京都市内の道路や都市公園でのスケートボードは、歩行者に危険が及ぶこと等から禁止されていた。しかし、スケートボードは続けられ、市民から騒音や施設損傷等への苦情が多数寄せられ、社会問題化し、行政が対策として計画したのがこのパークである。



図 10 火打形公園位置図<sup>10)</sup>



図 11 火打形公園施設平面図<sup>10)</sup>

##### ・ 京都市スケートボード協会設立、地元住民、行政の三者で話し合い

2002年、スケートボード施設運営について、京都市、上鳥羽の地元町内会とスケートボーダー代表の第1回の話し合いがもたれた。その後約2年にわたり、騒音やゴミ、深夜の滑走行為や治安の悪化などを心配する地元民の心配に対し、度々の話し合いの場を持ち、町内会会長、京都市の



図 12 火打形公園スケートボードパークイベントにて  
(京都市スケートボード協会HPより)

担当職員、京都市スケートボード協会会長は常に真摯に対応を続けた。この話し合いを通して、当初予定されていた公園内の場所近くに寝たきりの方が住んでおられることがわかり、位置を反対側に変更したり、この3者のどのピースが欠けても、地元の理解を得てのパーク実現は不可能であった。オープンまでに「青少年の健全育成」に地元を上げて取り組むことで合意に達し、地域が主体となって

管理運営するという趣旨で、京都市スケートボード協会と地元町内会有志で運営協議会を設立、パークの管理運営にあたることとなった。この3者の関係は、以来今日まで、18年もの間、紆余曲折ありながらも地道に育まれ続けてきている。

#### ・スケートボーダーの社会性も育てる活動

2004年、パークはオープンし、運営協議会による管理のもと、長きにわたって、初心者スクールや地元小学校での指導、イベントや大会の開催、スケートボーダーたちによるパークや町内清掃参加などを続けている。

#### ・クローズアップ現代に取り上げられた地域との関係性

2009年、京都市スケートボード協会会長は、「NHKクローズアップ現代」のインタビューを受けた。番組の趣旨についてその時には詳しい説明はされなかったが、京都市スケートボード協会会長は、前述の経緯を説明した。

実は、この番組のテーマは、各地で問題となっていた「騒音」であった。全国のアーバンスポーツパークでも、必ずといっていいほど検討される課題である。よって、この番組内容を記した記事<sup>9)</sup>を参照して、まとめを掲載しておく。

2009年10月NHKクローズアップ現代で「『公園の音』大人がぶち切れる その意外な解決策」という番組が放送された。番組では、たとえば西東京市のいこいの森公園で、噴水で遊ぶ子どもの声がうるさいと、近隣住民が裁判を起し、裁判所が騒音と認めたため、噴水をとめてしまった例が紹介された。どれも昔は問題にもならなかった音ばかりであるが、前出の末広公園のそばに長年住む女性は、「最近気になり始めた」という。かつては、遊んでいる子の親と知り合いだったが、時を経て、今は遊んでいる子らがどこの子かもわからない。音がストレスになってきている。何が変わったのか。

橋本典久・八戸工大大学院教授(当時)は、「近所の間人間関係がなくなり、地域への帰属意識もなくなり、公園は他人のものになった。子どもの顔も知らず、被害者意識だけになる」という。「公園の音は『騒音』ではなく『煩音(はんおん)』。小さな音でも煩わしいと感じる。利用者は普通に使うつもりだから、双方が被害感をもってしまふ。この2つは区別して対応しないと解決できない。」

ここで、「スケボーに苦情なし」として、京都市の火打形公園スケートボードパーク

が紹介された。多いときは日に100人近くのボーダーが、朝8時から21時まで滑るため、大変な騒音と想像されるが、周辺28軒の民家から苦情は来ない。これは他の公園からはずでに閉め出されていたスケボー仲間が、京都市の呼びかけに応じてパークの立ち上げから関わりつづけたことに始まる。リーダーを中心に、市、地元住民との話し合いを何度も行い、「汚さない、時間を守る、ルールを破るものがいれば、閉鎖を受け入れる」というルールを作って地域に申し入れ、実現した。住民側は、当初反対する者がほとんどであったが、何度も顔を合わせるうちに挨拶をするようになり、信頼関係ができ、今では共同で清掃作業をしたり、スケボー教室を開いたりしている。すると、音が気にならなくなった。「内容がわかっているからね。」

橋本教授は、「いい実例になっている。誠意を持って対応するのがなにより」と言う。

このような長年にわたる活動が認められ、2022年、京都市スケートボード協会会長に京都市から新たな依頼が舞い込んだ。2024年京都市左京区宝ヶ池公園球技場にオープン予定である新しいパークの監修である。新パークができる京都市宝ヶ池公園は、たまたま会長が生まれた時からずっと暮らしている地元の公園である。火打形の歴史を踏まえた、行政、地元住民と利用者のトライアングルのバランスがとれたパークが、もうひとつ誕生することは間違いない。

(2023年1月21日インタビュー実施：インタビューイヤー＝京都スケートボード協会I会長。加えて「Case Study 火打形公園スケートボードパークの取り組みについて」<sup>10)</sup>を参考とした。)

#### 4.5 《インタビュー》に関する考察：4パーク訪問調査から見たこと

アーバンスポーツパークは、形態・目的・オーナーシップなどさまざまである。計画段階から、全てのステークホルダー（地域住民・利用者・行政など）が慎重に関係構築し、連携することが重要である。そのデザインは、初心者から上級者まで使用可能であるよう、専門家と利用者から意見や要望を十分な時間をかけしっかりとヒアリングし、納得できるものにするべきである。また、大会レベルのパークは、広い面積でハイスペックな設備を持ち、屋内と屋外の両方のパークを持つことが望ましい。全てのステークホルダーが納得できるパークを作るには、まずは大きな資金と時間、関わる人々の多大な努力が必要である。

### 5. 研究：《データ分析》：518施設のパークスペック分析

アーバンスポーツを行うことができる国内施設の現状を調べるためインターネットの検索サイト「国内最大級スケートパーク検索サイトスケパ」<sup>7)</sup>に掲載されている687件(2022年12月10日現在)のパークを調査対象サンプルとし、この687件のうち、『スケートボード、インラインスケート、BMXなどアーバンスポーツの練習が許可されており』、かつ、『少なくともセクションが一つ以上あるパーク』を条件とし、518サンプルに絞った。セクションが一つでは利用者が満足するパークとは呼べないが、小さくとも地域の人がこれらのスポーツと出会うきっかけとなり、プレーヤーを育てていると考え、加えることとした。この日本全国に分布する518サンプルに関し、現在、全国

にあるパークにどのような傾向が見られるのかを分析する。

条件の一つとしたアーバンスポーツにおける「セクション」とは、山型、お椀型、階段型や金属製レールなど、様々な種類や形状をした造形物で、プレーヤーがそれらを使ってトリック(技)を行うものである。518件のパークは、別添資料5としてまとめた。調査内容は、「公共・民営」「有料・無料」などの30項目に加えて、設置されている「セクションの種類(19種類)」やその「素材」なども網羅した。

### 5.1 1パークあたりの人口比較

1パークあたりの人口を比較すると、少ない順に図14のような結果となった。関東では首都圏全体で、人口あたりのパークが少ない。また九州は全体的に少ない。近畿圏も和歌山をはじめ、大阪、京都、奈良、兵庫と総じて少ない。

### 5.2 パークが必要な地域

2022年に日本スケートパーク協会(JSPA)が47都道府県居住者を対象に「公共スケートパークが必要な地域」をアンケート調査した結果<sup>11)</sup>(図15)と、前項の「人口あたりのパーク数が少ない都道府県」とを比較したところ、パーク数が少ない都道府県上位と必要としている都道府県上位は、必ずしも一致しないことがわかった。これは、地域によってアーバンスポーツに対する熱のばらつきがあるためと考えられる。人口あたりのパークが少なく、ほしいと考える人も少ない地域は、このスポーツの裾野を広げる可能性がまだまだあると考えられる。

### 5.3 518施設を4グループに分類

518施設は、パークの設置者と料金の有無により、「公共/無料」「公共/有料」「民間/無料」「民間/有料」の4グループに分類した。これらの各グループによる特徴を分析した。公共(有料+無料)パークと民間(有料+無料)の割合はほぼ半々である。無料のパークは、公共が40%、民間は有料が多く48%である(図16)。

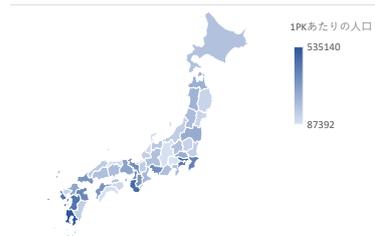


図13 1パークあたりの人口  
(筆者作成)

1 青森県	17 群馬県	33 島根県
2 滋賀県	18 宮城県	34 長野県
3 千葉県	19 宮崎県	35 山梨県
4 埼玉県	20 長崎県	36 栃木県
5 北海道	21 佐賀県	37 福島県
6 東京都	22 福岡県	38 岩手県
7 京都府	23 和歌山県	39 沖縄県
8 兵庫県	24 三重県	40 大分県
9 大阪府	25 愛知県	41 熊本県
10 奈良県	26 福井県	42 高知県
11 静岡県	27 神奈川県	43 山口県
12 岡山県	28 鹿児島県	44 鳥取県
13 岐阜県	29 愛媛県	45 石川県
14 茨城県	30 香川県	46 富山県
15 秋田県	31 徳島県	47 山形県
16 新潟県	32 広島県	

図15 パークが必要な地域<sup>17)</sup>

都道府県	1PKあたりの人口
1 沖縄	87392
2 山梨	90704
3 長野	97951
4 高知	99053
5 鳥取	110361
6 石川	112450
7 徳島	121122
8 宮城	133433
9 岩手	134053
10 佐賀	135366
11 栃木	138750
12 茨城	152125
13 福井	153512
14 宮崎	154049
15 新潟	156319
16 滋賀	157247
17 島根	166583
18 富山	172887
19 北海道	191988
20 香川	192977
21 群馬	194367
22 広島	199192
23 岐阜	199668
24 静岡	203243
25 岡山	208809
26 山形	211336
27 三重	223121
28 秋田	232209
29 青森	248616
30 埼玉	254684
31 福島	263035
32 福岡	283806
33 兵庫	288874
34 奈良	333844
35 山口	335119
36 愛媛	335389
37 愛知	358501
38 京都	358789
39 大阪	369698
40 大分	373047
41 千葉	394430
42 神奈川	418873
43 熊本	436878
44 長崎	440018
45 和歌山	467542
46 東京	492674
47 鹿児島	535140

図14 1パークあたりの人口  
(筆者作成)

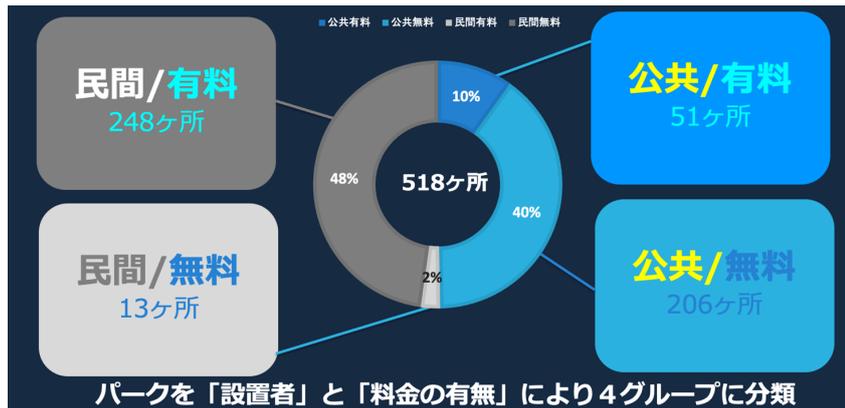


図 16 (筆者作成)

これは、公共パークは行政が公園の一部として設置したものが多く、民間は利用者に人気があるセクションをピンポイントで設置して料金を取っている(後出5.4)ことや、スポーツショップが購入者特典としていることなどが理由と考えられる。

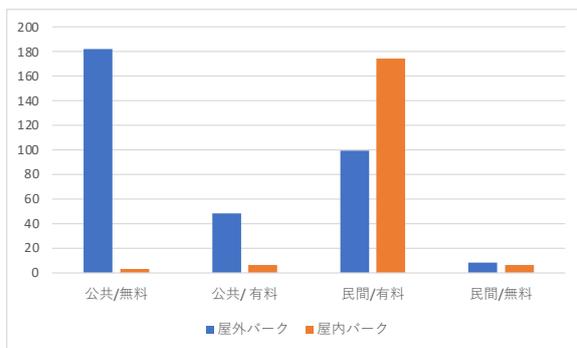


図 17 屋外パークと屋内パークの数 (筆者作成)

図17は、これらのパークが屋外か屋内かを表したグラフである。(両方を有しているパークがあるので数は実際より多くなっている。)

公共パークは圧倒的に屋外が多く、民間は屋内が多い。屋外公共パークが多いのは、既存の公園の未利用地に設置されたものが多いためと考えられる。そして、民間に関しては小規模のものがほとんどで、店舗内に作られているものが多い。

しかし、小さくてもスクールを開催し、スポーツの裾野を広げる努力をしているショップもある。あるいは、個人が自分の土地にフルコンクリートパークを手作りし、無料で一般公開しているものもある。

2. でインタビューを行ったパークは、4箇所のうち3箇所は屋内と屋外の両方を有している。地球温暖化が進み、暑く長い夏やゲリラ豪雨が増加することが予想され、パーク関係者から「これからは、空調が効き、陽射しや雨をしのぐことができる屋内パークが必須と考える」とのご意見をいただいている。今後、屋内型の公共パークが増えていくことを期待したい。

#### 5.4 セクションの種類

各パークに配置されている「セクション」の種類は図18のようになっている。今回は19種類について集計している。「公共/無料」グループでは、設置が比較的容易いセクションが10種類程度設置されていることが多い。「公共/有料」グル

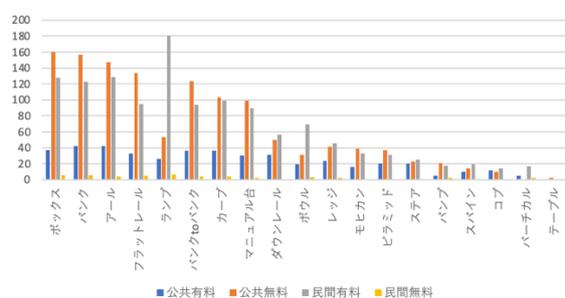


図 18 配置セクションにみられる特徴 (筆者作成)

ープは、4,000平米以上の大規模パークが殆どで、ほぼ満遍なく多種類のセクションが揃っており、国内・国際大会が可能なハイレベルのパークが多い。

「民間/有料」グループは、最も人気があるセクションの一つ「ランプ」（楕円を半分に切ったような形のセクションで、スノーボードのハーフパイプのような形をしている）や「ボウル」（大きなお椀型のセクションで、もともとはアメリカが深刻な干ばつ時に水を溜められないプールをスケートボードで滑ったのが発祥と言われている）を単独で有するところが多い。これはスポーツショップ（ギア販売店）が販売促進で設置しているものがほとんどであり、購入希望者がギアを試すことができるように、あるいは身近で手軽に滑って楽しめるよう、店舗に付随して設置している。

図19は、技術レベルによって利用者が求めるパークの条件が異なることを表している。<sup>7)</sup> 福永らは「技術レベルが低い程、セクションに関する関心度と、施設の立地・営業などの条件に関する関心度がほぼ同等であるといえる」とし、「技術レベルが高いほど、施設の立地・営業などの条件よりも、セクションの設計や配置など、セクションに関する関心度が高く、特に専門家による設計が求められている」としている。専門家の意見を考慮して、レベルに応じたセクション配置を考える必要があり、さらに初心者にはフラットエリアが必要で、セクションの「滑走面の材質に配慮すべき」、さらに「技術レベルによって空間の棲み分けが必要」としている。

技術レベル	スケートパークの選定条件項目	回答率
初級者	家から近い	85%
	料金が安い	59%
	セクションの種類が自分のレベルに合う	48%
	セクションのサイズが滑りやすい	
	セクションの施工がよい	44%
中級者	家から近い	75%
	料金が安い	
	利用時間が長い	58%
	セクションの滑走面にこだわる	42%
	セクションの施工がよい 屋内である	
上級者	セクション配置が面白い	82%
	セクションリニューアルをよく行う	59%
	家から近い	
	料金が安い	
	セクションのサイズが滑りやすい	53%
	屋内である	47%
	プロの設計	41%

図19 技術レベル別に見た利用者のスケートパーク選定条件<sup>7)</sup>

### 5.5 参考となるファンディングの例

前出(4.2)境町アーバンスポーツパークの例に見られるように、新設費用、管理運営・修繕や、スタッフの雇用継続費用に充当するため、さまざまな特徴あるファンディングをおこなっているパークがある。表1は、それらの一例をまとめたものである。

表1 参考となるファンディング例

(筆者作成)

企業版ふるさと納税	村上市スケートパーク	新潟県村上市
	境町アーバンスポーツパーク	茨城県猿島郡境町
ふるさと納税	境町アーバンスポーツパーク	茨城県猿島郡境町
	近江八幡市立	滋賀県
	健康ふれあい公園スケートパーク	近江八幡市
	秋田県にかほ市新設パーク	秋田県にかほ市
スポーツ振興くじ助成金	田原本町スケートボードパーク	奈良県磯城郡
	スポーツパークまつばらスケートパーク	大阪府松原市
ネーミングライツ	タカオスケートパーク福山	広島県福山市
	フクダ電子ボードエリア	千葉県千葉市
クラウドファンディング	夢の島スケートボードパーク	東京都江東区
	秋田県にかほ市新設パーク	寄付者は99%県外
	尼崎市 NPO 法人 ASK	兵庫県尼崎市
地域おこし協力隊	境町アーバンスポーツパーク	プロレベル競技者を指導者雇用
	ムラサキパークかさま	

この表に掲載した例は、当方にて確認できたもののみであり、実際にはもっと多くのパークが、よりさまざまなファンディングを行なっていると思われる。

## 5.6 調整池や高架下の多目的利用

アーバンスポーツパーク用地は、既存の公園内未利用地に設置される例が多いが、表2のように調整池や高架下などを有効利用している例が見られるようになっている。

表2 調整池や高架下の利活用例

(筆者作成)

遊水地 / 高架下	新横浜公園スケボー広場	神奈川県横浜市
調整池	ストリートスポーツパーク・ゴカ	茨城県五霞町
	アクアパーク吉川	埼玉県吉川市
	ふじみ野市運動公園スケートパーク	埼玉県ふじみ野市
	杉戸屏風スケートボードエリア	埼玉県北葛飾郡
	しもつまスケートボードパーク	茨城県下妻市
	東金沢スポーツ広場	石川県金沢市
	小牧スケートパーク川西	愛知県小牧市
	テクノさかきストリートパーク	長野県坂城町
	三木スケートボードパーク	兵庫県三木市
	健康ふれあい公園	滋賀県近江八幡市
	高架下	湘南夢わくわく公園スケートボード場
若宮大通公園スケート広場		愛知県名古屋市

図20は京都府の重要開発調整池である。通常、このようにまわりがコンクリートで固められフェンスを張り巡らせた湿地のような状態になっていることが多い。が、この調整池を図21のように多目的利用し、アーバンスポーツパークとしている。図22は、新横浜公園の例である。氾濫しやすい鶴見川の遊水地として日産スタジアムのまわり一帯と、新横浜元石川線高架下を利用し、アーバンスポーツのみならず、さまざまなスポーツが行える公園として利用されている。



図22 高架下利用例：  
新横浜公園スケボー広場  
(HPより)



図20 一般的な調整池の様子  
(京都府資料より)



図21 調整池利用例：ふじみ野公園エクストリームスポーツパーク  
(HPより)

調整池や高架下などの利活用例については次章（6.3.3）でも触れる。

## 5.7 《データ分析》結果に対する考察

現在、全国に大小あるが、多くのアーバンスポーツパークが存在している。アーバンスポーツは競技上のコート規定がなく、形も不整形であることから、パークの敷地規模やスペックは特に定まっておらず、自由度が高い。それだけに、さまざまなパークが存在する。この点を活かし、地域に存在する未利用地や、調整池・高架下のような、利用されてこなかったスペースに、パークを作れる可能性がある。

地域によってアーバンスポーツに対する熱のばらつきがあるためか、パーク数が少ない都道府県上位と必要としている都道府県上位は、必ずしも一致しないことがわかった。この熱意のばらつきは、逆に考えればアーバンスポーツの裾野を広げる可能性と考えられる。

これからパーク設置を検討するさい、参考にできるさまざまなファンディングや土地の多目的利用例を知ることができた。

## 6 研究：《アンケート》2004年公共パークアンケート調査と2023年調査の比較

今回行ったアンケート調査は、2004年に行われた伊與田らの「スケートパークの立地及び地域施設としての特性に関する調査・分析—アンケート調査結果の概要—」<sup>4)</sup>の調査内容に基づいた。

2004年のアンケート結果は、**別添資料2**をご参照いただきたい。これに基づき、今回新たに2023年版アンケートを行うこととし、「5.3」で絞り込んだ518件のパークのうち、公共施設257件をサンプルとした。これら257施設を管理・運営する行政、または行政が委託する組織に対し、2004年

とほぼ同内容のアンケート調査を実施した。アンケートの質問内容は **別添資料1** の通りである。調査は、257の公共施設にアンケートをメールにて送付した。期間は2022年12月27日からはじめ、2023年2月6日まで回答を得た。回収数は122件で、回収率は47%であった。

アンケート内容は、2004年調査で問われた「スケートパークの基本属性」「利用に関して」「設置に関して」などの項目(別添資料2参照)に加え、「東京2020オリンピックの影響」, 「高架下や調整池の利用」など、既存別施設利用の有無を尋ねる質問を追加した。また、少数回答については **別添資料3** にまとめた。

以下、6.1から6.4までアンケート結果の分析と考察を行う。

## 6.1 パークの基本属性

### 6.1.2 設置数の経年推移

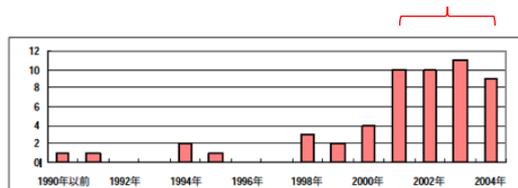


図 23 施設設置数 経年推移 [2004] ⑧

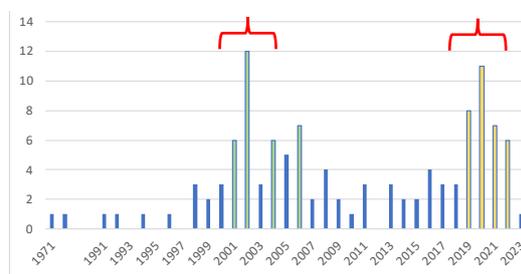


図 24 施設設置数 経年推移 [2023] (筆者作成)

2004年調査で、2000年代に入ってから飛躍的に設置数が伸びたことが指摘されているが、2023年調査では設置数の伸びが2001年～2006年と、2019年～2022年の二度ピークがあったことが読み取れた。2001年～2006年、スケートボードの人気は、シューズ等のファッションをきっかけとしたアメリカン・カルチャーサイドから爆発したととらえられている。2019年～2022年については、2016年に東京2020でスケートボードをはじめとするアーバンスポーツ3種目の採用が発表され、日本人選手が大活躍したことが遠因となっていることがあげられる。

### 6.1.3 施設面積

表 3 施設面積の比較

施設面積(平米)	算術平均	トリム平均*	中央値	バスケットコート
2004年	1441.5	1180.7	923	2面
2023年	1529	1436.1	1087	2.5面

\*トリム平均は、極端に大きい「鶴沼海浜公園スケートパーク」の値をカットしたもの (筆者作成)

2023年調査での施設面積は、各地で広いパークが現れ、中央値ではバスケットコート半面分広

くなっている。これは、より広いスペースがあれば、初心者から上級者のニーズにさらに幅広く応えるパークをデザインすることが可能になるため、年々広がってきていると考えられる。

#### 6.1.4 駐車場台数

表4 駐車場台数の比較

駐車場台数	算術平均	トリム平均	中央値
2004年	178.6	137.2	82
2023年	191.8	—	92

(筆者作成)

施設に付随する駐車場の駐車可能台数は、表4の通りである。2004年は隣接する大型施設と駐車場を共用しているところをカットしたトリム平均を出しているが、2023年については、全国的に、多くのパークが土地利用が比較的しやすい総合公園や他の公共施設に隣接し、それらの施設と駐車場を共用しているため、今回はトリム平均をあえて算出しなかった。2023年は台数が増加しているが、駐車場があることは利用者の便に大きく資するし、利用率アップにもつながるためと思われる。

#### 6.1.5 設置セクション数

表5 セクション数の比較

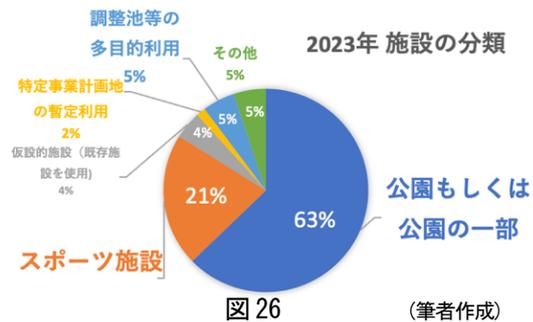
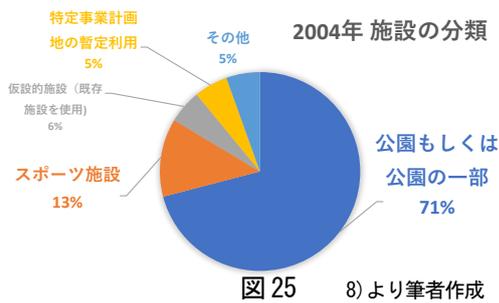
セクション数	算術平均	中央値
2004年	6.5	5
2023年	7.6	7

(筆者作成)

スケートパークに設置されているセクションは、1個以上増加している。セクションは素材によっては経年劣化が早いものがあるが、2004年に最も多くのセクションが設置されていた「桜が池公園スケートパーク」では、現在も劣化がしにくい金属製セクションをさまざま設置している。

このデータは行政側が設置したセクションの数量である。しかし、多くのパークでは2004年も2023年も、地元の愛好者が行政側の許可を得て、手作りのセクションを持ち込んでいる。実際の平均は倍近く上がることが想像できる。

## 6.1.6 施設の分類



スケートパークの管理・運営を行っている行政等による施設の分類を比較すると、2004年の考察は「ストリートスポーツが未だ“スポーツ”というカテゴリーで十分に認知されていないことが窺える」となっている。また「『公園もしくは公園の一部』39件の中で、その都市公園の分類を行うと、『総合公園』11件、『運動公園』7件という、いずれも誘致距離30分以内の都市基幹公園に含まれるサンプルが多いことが窺える」（都市公園法運用指針（第2版）2012）とある。この誘致距離は一律の市街地と人口密度を想定したものであり、実情に馴染まなくなってきたため、「平成14年度の施行令改正により住区基幹公園における誘致距離の表示は廃止」され、誘致距離の具体的数値は現在都市基幹公園に表示されていない。しかし都市公園は、市街地において備えるべき都市施設とされているものであり、現在も利用者にとってアクセスは比較的しやすいのではないかと考えられる。2023年も「公園」と分類されるパークが一番多いが、「スポーツ施設」とする施設が増加していることが特徴である。東京2020の種目として採用され、日本人選手が大活躍し、アーバンスポーツがスポーツとして認識されるようになってきたことが影響していると考えられる。

## 6.2 パークの利用に関して

### 6.2.1 利用可能種目

パークの利用可能種目は、2023年ではスケートボード、インラインスケート、BMXの3種目に加え、スポーツクライミングやブレイキン、3 on 3など、他のアーバンスポーツも可能になっていることが特徴である。中でも、オリンピック種目となっていないインラインスケートの割合が9ポイント減少していることが特徴である。

2004年ではBMXを単独で利用できる施設は無いということが分かっていたが、2023年では、BMX単独利用の施設は、京都府向日市の競輪場に設置されたサイクルパーク京都のみであり、インラインスケートの単独施設はない。122回答すべての施設でスケートボード利用が可能であるが、ス

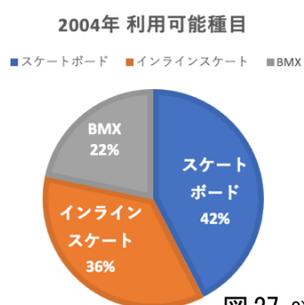


図 27 8)より筆者作成

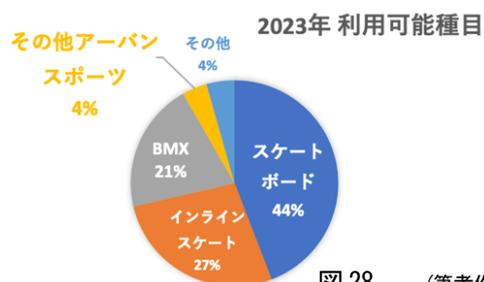


図 28 (筆者作成)

スケートボードの単独利用施設はうち32件であり、複数のアーバンスポーツを行うことができる施設は72%である。

## 6.2.2 平均利用者数

表 6

来場者数(人)	平日	土日祝	年間
2004年	14.9	35.6	—
2023年	25	62.7	9458.7

(筆者作成)

スケートパークの一日の平均利用者は、いずれの日も2023年には増加している。しかし、公共パークは、公園と分類され無料のところが多く、これにより、正式に利用者数の統計を取っている施設は少ない。しかし、スポーツ施設と分類されている施設は、公共でも来場者数を記録している。

2004年同様、抽出した数値と実際の数値には、かなりの振れ幅が出てくると考えられる。

## 6.3 パークの設置に関して

### 6.3.1 パークの設置理由



図 29 8)より筆者作成



図 30 (筆者作成)

2004年も2023年も、どちらも「愛好者からの要望」が1番の設置理由である。2004年に伊與田らは「多くの自治体でハコモノ行政的な“施設先行型”ではなく、実状から発生する“社会的ニーズ先行型”による計画といえる」<sup>4)</sup>と考察している。2023年で注目すべきは、「地域の活性化を期待して」と「スポーツ文化の発展を期待して」という、より公共性の高い理由が増えていることである。

### 6.3.2 パーク計画段階での事前活動

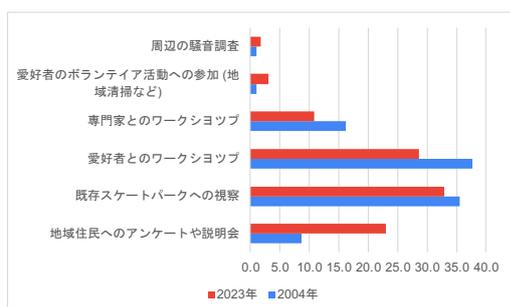


図31 8)とアンケートより筆者作成

スケートパークの計画段階で行われた事前の活動は、どちらの年も「愛好者とのワークショップ」が多い。が、2023年はそれよりも「既存スケートパークへの視察」が上回っている。全国的にパークが少なかった2004年に比べると、参考にできる多くの既存パークが存在したためと考えられる。また、2023年は「地域住民へのアンケートや説明会」「愛好者

の地域清掃活動への参加」「周辺の騒音調査」といった、社会性、公共性に関わる事前活動が増えている。

### 6.3.3 敷地決定要因

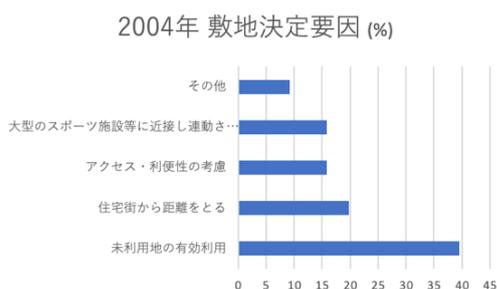


図32 8)より筆者作成

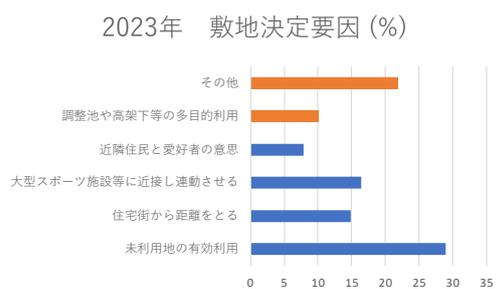


図33 (筆者作成)

敷地の決定要因は、どちらの年も「未利用地の有効利用」が最も多い。多くのパークが「未利用地の有効利用」を要因の一つと捉えていることは、アーバンスポーツパークが特定の敷地形状やセクションの材質などを持たないという、他のスポーツには見られないフレキシブルな特性があるためと考えられる。また、2023年は「大型のスポーツ施設等に近接し連動させる」がさらに増えている。これは、アーバンスポーツが、よりスポーツとして認識されてきていることによるものと考えられる。加えて、調整池や高架下、災害時の物資集積場、最終処分場跡地、河川敷といった、従

来であればあまり利用されてこなかった場所を利用する例が多くなっている。実際に京都府は、重要開発調整池に関する技術的基準<sup>12)</sup>で「多目的利用 重要開発調整池を設置する場合は、多目的利用について積極的に検討することが望ましい」（総則第1章7）としている。また、新たに設置するパークの敷地として既存調整池利用を決められたある自治体にその理由をおたずねしたところ、「元々コンクリートが敷設されており、四方がフェンスに囲まれている。滑走面の大規模な改修が不要であり、フェンスの新設も不要であることから、安価での整備が可能」というお答えをいただいた。パークをフェンスで囲うことについては賛否両論あるが、「広場にあるパークなどは、マナーの悪い方の影響で閉鎖に追い込まれる事例が多いと聞いたため、長く存続していくためには、自由に入出りできること以上にセキュリティは重要であると考え」必要と判断したとのことである。

#### 6.3.4 管理・運営側からの施設立地評価

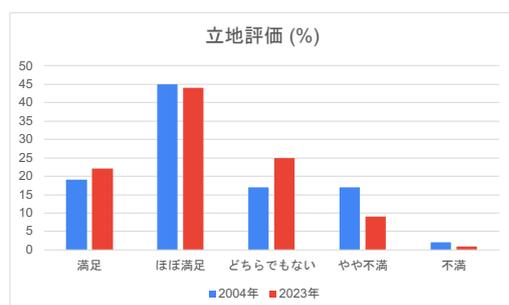


図 34 8)とアンケートより筆者作成

管理・運営的立場からの施設立地評価についてはどちらの年も「満足」、「ほぼ満足」がほぼ同じ割合であった。「満足」、「ほぼ満足」と評価した施設の主な理由として、2004年と2023年のどちらも、アクセスの良さ、騒音問題がないことや、土地の有効利用が円滑に図られたこと、などが見受けられた。

2023年の特徴としては、地域の利用者が増えたこと

のみならず、地域外からの利用者が増えたこと、があげられている。また「やや不満」「不満」と評価した理由の中には、騒音や苦情を危惧し、住宅地から距離をとったことが返ってアクセスの悪さ等に影響していることを挙げている例もあり、両年とも「“周辺地域との関係”と“アクセスビリティ”が重要なファクターになっていることが覗える」<sup>4)</sup> (2004 伊與田・坪井)。2023年アンケートのそれぞれの回答に対する評価の理由は、別添資料1に全て掲載したのでご参照いただきたい。

### 6.3.5 “公共性”への拠り所

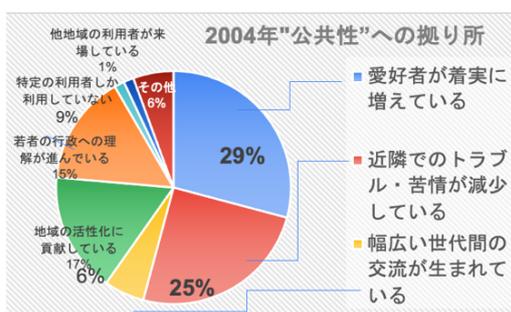


図 35 8)より筆者作成

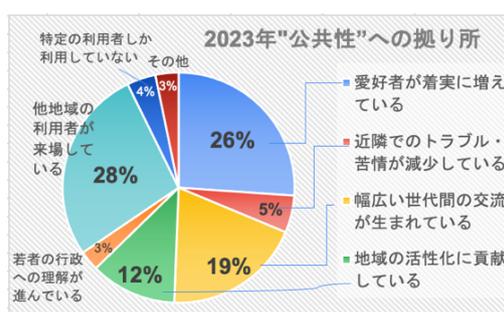


図 36 (筆者作成)

管理・運営側が施設に対して感じる“公共性”への拠り所は、どちらの年も「愛好者が着実に増えている」「幅広い世代間の交流が生まれている」が大きな割合であった。2004年では公共性を感じている点が「近隣でのトラブル・苦情が減少している」という「衛生要因」であるが、2023年では、「地域の活性化に貢献している」「他地域の利用者が来場している」という「動機付け要因」が大きく伸びており、パークが広く他地域との交流にも役立ち、活性化に貢献していることがわかる。

その他には若者の行政への理解や、他地域の利用者の来場等に公共性を感じているサンプルがあった。しかし、いずれの年もスケートパークの公共性に疑問を感じさせる、「特定の利用者しか利用していない」との意見があった。

### 6.3.6 管理・運営側が感じる“公共事業”としての評価

“公共事業”としての評価は、2004年は59%、2023年は64%が「満足」、 「ほぼ満足」となっている。2004年の「満足」「ほぼ満足」の好評価側での理由としては、隣接する公園自体の利用増加を促していることや、愛好者のニーズに応えられたといったことを挙げていた。2023年の高評価側理由には「他地域からの利用が増えた」、「幅広い年代の利用者がある」、「行政だけでなく、市民協働で維持管理できている」などがあげられる。こういった愛好者のボランティア活動への参加は、火打形公園(4.4)をはじめ、いくつかの地域で見られ、若者がまちづくりへ参加していく契機として、大きな意義を持っているとも考えられる。

「やや不満」、「不満」の低評価側の理由には、2004年も2023年も共に一部利用者のマナーの悪さが挙げられており、類似の意見は「やや満足」「どちらでもない」にもいくつかのサンプルで見られる。また、「利用者の満足度がわからない」との意見もあり、特に無料施設はフィードバックを得られにくいことがうかがわれる。2023年アンケートのそれぞれの回答に対する評価の理

由は、別添資料1に全て掲載したのでご参照いただきたい。



図 37 8)より筆者作成

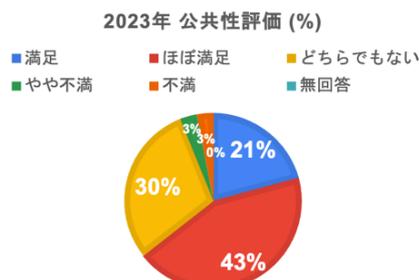


図 38 (筆者作成)

### 6.3.7 新たな事業

スケートパークに関する新たな事業について、2004年では、88.9%の施設が今後の事業を「未定」としており、2004年に伊與田らは「スケートパークは2000年代に入ってから計画されている施設が大半であるので、管理・運営者側も今後の施設利用状況及び社会的ニーズの動向を見据え、事業としての模索段階であることが覗える」<sup>4)</sup>と考察していた。

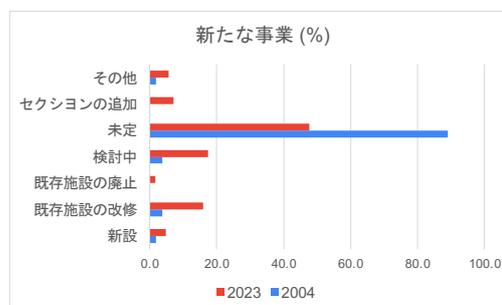


図 39 8)とアンケートより筆者作成

これが、2023年には「未定」は47.6%となり、2004年の約半分であった。既存施設の利用者が増加したので新設を決めたところや、経年劣化した施設を改修するところ、セクションの追加をするところなど、前向きに計画を立てているサンプルが増えている。

## 6.4 《アンケート》結果に対する考察

アンケート結果から、アーバンスポーツへの2020東京オリンピックの影響が顕著であることが読み取れた。たとえば、東京オリンピックのアーバンスポーツ種目において日本人選手が大活躍したことにより、ストリートの遊びとしてとらえられていたアーバンスポーツがスポーツとして認知され始めていることや、オリンピック競技に採用されたことが、パーク設置や既存施設のリニューアルにつながっている例が見られる。

パークのスペックに制限がない利点を活かし、大型のスポーツ施設や公園に近接した未利用地を活用し、それらと連動させたパークがさらに増えてきている。また、調整池や高架下、災害時の物資集積場、最終処分場跡地や河川敷等、従来あまり利用されてこなかったスペースを多目的に

利用する例が多くなっている。

また、行政側の意識の変化も明らかになった。2004年には、騒音問題などの衛生要因がパーク整備のきっかけとなっていたものが、2023年には、他地域との交流人口を増やし、地域の活性化をはかるなど、動機付け要因がパーク整備の目的となっており、実際にその目的が達成されてきている。

別添資料3には、アンケートで任意で自由にご記入いただいた「パークの特徴やご意見」もまとめた。全国のパークの、さまざまな参考になる特徴や工夫を知ることができる。

なお、本アンケートとは別に、富山県が2022年スケートボードコーナー設置試行事業のさい行なったアンケートによると、オリンピック以降に新しく始める初心者が多く見られ、施設については、屋根の設置や、インストラクターの常駐といった安全性を求める意見が多く、「無料で楽しめるパークよりも、しっかりと管理された指導者の居る有料スケートパークを求めている」と言う結果が出ていることを付け加えておく。<sup>19)</sup>

## 7. まとめ

2.3において、本研究の目的は、[国際大会が開催できるような、国際基準を満たした設計を持つ大規模パークの活用と、現在国際レベルパークが存在していない地域に新規設置を行い、国内・国際大会開催を各地に誘致することにより、アーバンスポーツをやっていない人、興味がなかった人に、まず実際に見るスポーツとしての楽しさを知ってもらうことができるのではないかと。競技者と観戦者を、アーバンスポーツを『やる』・『見る』スポーツツーリズムに繋げる。アーバンスポーツの競技者人口増と競技レベルアップ、ひいては地域の活性化を目指すことができるのではないかと]と仮定し、現在アーバンスポーツを行うことができる国内施設の現状を調べ、可能性と課題を探り、仮定を検証する。また、スポーツ競技人口が減少傾向にある今、「経済的に成功する民間施設として」、「社会的意義がある公共施設として」あるいはさらに別の形で、アーバンスポーツパークを成立させる条件とは何かを導くこととする]とした。しかし、本研究で行った調査やアンケートから、現状では、経済性を求め、経営的に成立させることは大資本でなければほぼ無理、または大資本であってもかなり難しいということがわかった。まずは、本研究でご紹介した全国のさまざまなパークを例として、用地選定を行い、計画段階の事前行動をしっかり積み上げ、地域に受け入れられ、利用者が使いやすく、技術のレベルアップを安全に目指せるスペックを持つパークをつくりあげることを検討していただきたい。さらには、問題行動と繋がれがちな利用者を、京都火打形公園スケートパークの実践例にならい、地域でアーバンスポーツイベントを開いたり、小学生対象のスクール活動をしたり、パーク清掃活動を行うなどの社会活動に導き、利用者が地域住民や行政とともにパークを中心に前向きに変化していけたらいいと考える。このように、しばらくの間は公共性を追い、アーバンスポーツそのものの裾野を広げることが重要であろう。

「冠スポンサーをつけ開催、メディアで報道されるような大会」は、現状ほんの一部である。これは、「用具などの販売で利益を上げている輸入販売業者および国内小売業者が参加している団体などが主催、協賛、後援している大会は営利目的とみなされるためであり、日本の地方公共団体が管理する公共スケートパークでは、ほぼ開催できないという現実がある。その理由は、営利大会を認める規定や規約が無いことにある。プレイヤーがスクール講師として、日当を受け取る形でのスクール開催も、これに関する規約がないため認められない状況<sup>20)</sup>と伺った。現在メジャーとされている他のスポーツは、スポーツマーケティングとうまく協働していくことで育ち、スポーツの裾野が広がってきたものと筆者は理解している。身近で素晴らしいパフォーマンスを見ることができ、実際にやることができることが、特に若者や子どもたちの気持ちを揺さぶり、スポーツを行う楽しさを与えてくれると考える。今後の規約整備が待たれる。

アーバンスポーツの裾野を広げるにおいて、参照できるアンケート結果がある。アーバンスポーツを多少なりとも知っている人に対し、「全国各地のアーバンスポーツパークで競技をしてみたいか？」という質問に対して、「ぜひ行ってみたい」と回答した人が80.4%と多くの割合を占めていたのである。（アーバンスポーツとの関係に関する調査<sup>5)</sup>）少しでも見たり聞いたりした

ことがあれば、やってみたい、行ってみたいと感じる人が多いことがわかる。太田ら<sup>21)</sup>は「都市公園行政におけるスケートボード専用のパークマネジメントについて」において、「アーバンスポーツを通じたまちづくりの観点から、スケートパーク等の設置の意義及び存在は非常に大きく、県内外の交流人口増加に伴い、その地域における公営事業等の存在周知に繋がることで付加価値が想像される可能性」を指摘している。橋下ら<sup>9)</sup>の「アーバンスポーツツーリズムのニーズに関する分析：Web アンケートによる調査」におけるアンケート調査の結果から、「アーバンスポーツ競技者におけるツーリズムニーズは高いと考えられ、そのような人々が実際に全国各地における交流を増やすことによって、その地域における様々な魅力を知り、アーバンスポーツ以外の新たな経済活動が行われることが期待される」とある。

いずれ近い将来、このような可能性を持つアーバンスポーツがより身近なところにでき、多くの人に楽しまれ、スポーツの裾野が広がっていくことを期待する。

## 7.1 本研究の限界

どのようなパークがよく利用されるのか、最も端的に測れるのが来場者数であろう。来場者数が取れていれば、次に上げるような疑問に答えていくことができる。たとえば、周辺人口の多い少ないと、来場者数は相関するか。来場者が年間5,000名以上のパークとそれ以下のパークは何が違うのか。「利用可能種目」によって、来場者数が違うか。行政側の満足度と来場者数には相関があるのか、つまり、来場者が多ければ、行政側の満足度は上がるのか、などである。だが、アーバンスポーツパークは、そのほとんどが、自由に入出りできる公園の一部であるため、来場者人数を把握していない。そのため、このような分析は今のところ不可能である。

## 7.2 独自の貢献

今回ご協力いただいた122の自治体から、「パーク準備時に、まとまった情報がなかなか見当たらなかったの、できあがったら見せてもらいたい」というお声を少なからずいただいた。また、「来年新しく建設されるパーク監修を行うのでデータを参考にしたい」とのお言葉もいただいている。

本研究の内容が、よりよいアーバンスポーツパークが創られるために少しでもお役に立つことがあれば、望外の喜びである。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、ご指導およびご協力をいただいた多くの方々へ、心より感謝の意を表したいと思います。

指導教官の前川佳一特定教授には、二年間の長きに渡り、いつも温かく見守っていただきました。私の拙い研究に対し、常に真摯に向き合ってください、丁寧なご指導と温かい励ましを賜りました。

また、いずれもとても興味深く完成度の高い研究を年度はじめから続けられた2022年度ワークショップの仲間からは、多くの素晴らしい刺激とアドバイス、そして多大なご支援をいただきました。2021年度および2022年度の素晴らしいメンバーの皆様、心から尊敬できる仲間、この前川ワークショップで出会うことができました。

先生、そして仲間の皆さん、心から感謝申し上げます。

本研究のために訪問させていただいたパークの皆様、面識のない者からの突然のお願いにも関わらず、それぞれ長時間詳しくご案内・ご説明いただき、ありがとうございました。

また、それぞれメールのみでしたが、問い合わせに丁寧に答えてくださった、スケートパーク検索サイトを10年以上ボランティアで運営されている方、20年近く地元スケートボーダーのリーダーとして行政と地域をまとめてこられている方、NPO法人を主催されスケートボードパークに関する情報収集やアンケート実施、パーク設置アドバイスおよび発信を続けておられる方、そのほか、アーバンスポーツに対し、熱い思いを抱いて長年活動を続けてこられた皆様の熱意に対し、尊敬と感動の念を抱いております。少しでも皆様のお気持ちにお応えできるような研究となっていることを願います。

また本研究で行いました公共パークアンケートにおいて、全国の自治体の皆様におかれましてはご公務でお忙しい中、ご丁寧な回答をたくさん頂戴し、心より感謝いたします。多くの自治体担当者の方々からは、研究結果に関心をお示しいただき、とても励みとなりました。

皆様からいただいた貴重なご報告やご意見を集約させていただいた本研究が、今後よりよいアーバンスポーツパークがつくられていくために、何らかのお役に立つことができることを心より願っております。

最後に、実り多き充実した学生生活をともに過ごしたMBAの仲間、諸先輩方、後輩の皆さん、応援し続けてくれた家族に、この場を借りて感謝を伝えたいと思います。

皆様、本当にありがとうございました。

## 参考文献

- 1) Belinda Wheaton “The cultural politics of lifestyle sports” (監訳者：市井吉興・松島剛史・杉浦愛「サーフィン・スケートボード・パルクール ライフスタイルスポーツの文化と政治」)P. 1, P. 60, P. 4(2019)
- 2) 東京新聞 TOKYO Web「東京五輪開会式の米国での視聴者数、ソウル五輪以降で最低とNBCが公表」2021-07-25. <https://www.tokyo-np.co.jp/article/119226> (参照 2023-01-31)
- 3) Number Web オリピック PRESS「若者たちに不人気な『スポーツ観戦』…東京五輪で若年層の視聴率は伸びた？ プロ野球中継のメイン視聴者は“75歳以上” 説も…」2021-08-27  
<https://number.bunshun.jp/articles/-/849424> (参照 2023-02-05)
- 4) スポーツ庁「令和3年度『スポーツの実施状況等に関する世論調査』の概要」別紙 p. 2
- 5) 橋本 要・鈴木哲平・藤原健祐「アーバンスポーツツーリズムのニーズに関する分析：Web アンケートによる調査」札幌大学研究紀要 第3号 (2022年10月) p. 263-272 (図3)
- 6) スポーツ庁「スポーツ施設による新たな価値創造に向けて～身近なスポーツの場からスタジアム・アリーナまで～」(2019)P. 3 スポーツ施設数の推移
- 7) 福永順子, 馬場義徳, 中村良三, 渡辺仁史「利用者行動から見たスケートパークの建築計画学的研究 (2002年度大会(北陸) 学術講演梗概集)」学術講演梗概集. 計画系 (1), 381-382, 2002-06日本建築学会
- 8) 伊與田 敬介・坪井 善道「スケートパークの立地及び地域施設としての特性に関する調査・分析—アンケート調査結果の概要—」(2004) 日大生産工
- 9) 河崎 覚 「日本におけるスケートパークの現状について」(2021年11月9日) NPO 法人 日本スケートパーク協会 代表理事
- 10) 国内最大級スケートパーク検索サイト「スケパ」 <https://sk8parks.net/>
- 11) 茨城県境町資料「スポーツを核としたまちづくり」P. 13 (図7)
- 12) 茨城県境町資料「河岸の街さかい復興プロジェクト～オリンピックレガシーを遺し活用する拠点整備計画～」(2022)P. 4  
<chrome-extension://efaidnbmninnkpbpcjpcglclefindmkaj/https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/dai63nintei/plan/a026.pdf>
- 13) 笠間市生涯学習課「笠間スポーツコミッション」図9  
[https://www.city.kasama.lg.jp/data/img/1632271607\\_55.jpg](https://www.city.kasama.lg.jp/data/img/1632271607_55.jpg) (参照 2023-02-04)
- 14) J CAST テレビウォッチ, クローズアップ現代「『公園の音』大人がぶち切れる その意外な解決策」(2009-10-06) (参照 2023-01-21)  
<https://www.j-cast.com/tv/2009/10/06051063.html?p=all>
- 15) 鳥居一郎, 「Case Study 火打形公園スケートボードパークの取り組みについて」公園緑地 事例8 Vol.1.

- 16) 1パークあたりの人口 「都市別人口(令和2年10月国勢調査)」総務省統計局 図14  
<https://www.stat.go.jp/data/nihon/02.htm> (参照 2023-01-17)
- 17) 日本スケートパーク協会 (JSPA) 「公共スケートパークが必要な地域」(2022)  
<https://www.jspa.or.jp/?p=676> (参照 2023-01-09)
- 18) 京都府 「重要開発調整池に関する技術的基準」  
chrome-extension://efaidhbmnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.pref.kyoto.jp/kasen/documents/01gi\_jyutuki\_jyun.pdf
- 19) 富山県土木部都市計画化区画整理・公園課 「岩瀬スポーツ公園スケートボードコーナー設置試行事業のアンケート結果」  
<https://www.pref.toyama.jp/1506/kendodukuri/toshikeikaku/kukakuseirikouen-tochi/20221219iwaseskateboard.html>
- 20) NPO 法人 日本スケートパーク協会 代表理事 河崎 覚氏よりヒアリング (2023-2-9)
- 21) 太田幹也, 佐藤充宏. 「都市公園行政におけるスケートボード専用のパークマネジメントについて」  
地域科学研究 10 (2020) : 25-3

アーバンスポーツパークに関する調査(2023)	
貴パークの基本情報について	
Q1	貴パークの設置年(西暦)はいつですか?
Q2	貴パークの施設面積(平米)を教えてください。
Q3	駐車場の有無と、駐車可能台数を教えてください。
Q4	設置セクションがございましたら、何基あるか教えてください。(コンクリート、木、金属などでできた山やレールなど、行政側が設置されたもので、可動式および不可動式の両方を含みます。)
Q5	貴パークの施設分類をお答えください。
	・公園 もしくは 公園の一部
	・スポーツ施設
	・仮設的施設(既存施設を利用)
	・特定の事業計画地の暫定利用
	・調整池等の多目的利用(具体的には? )
・その他	
貴パークの利用に関して	
Q6	利用可能種目を教えてください。
	・スケートボード
	・BMX
	・インラインスケート
	・その他
Q7	平均利用者数はおよそ何人くらいですか?(可能でしたら、平日と土日祝のそれぞれの平均的な人数を教えてください。)
	回答例: 平日( )名, 土日祝( )名 / 1ヶ月( )名 / 1年( )名 / 統計をとっていないので不明
Q8	貴パークの設置理由を教えてください。(複数回答可)
	・愛好者からの要望
	・青少年の健全な育成
	・スポーツ文化の発展を期待して
	・地域の活性化を期待して
	・将来的なニーズを見据えて
	・市民団体からの要望
・2020東京オリンピックをきっかけとして	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣住民とのトラブルを危惧して</li> <li>・公共物の破損を危惧して</li> <li>・その他</li> </ul>
Q9	<p>今の場所に決められた理由をお聞かせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未利用地の有効利用</li> <li>・調整池や高架下等の多目的利用のため</li> <li>・住宅街から距離を取るため</li> <li>・大型スポーツ施設等に近接し、連動させるため</li> <li>・近隣住民と愛好者の意思</li> <li>・管理が容易</li> <li>・その他</li> </ul>
Q10	<p>貴パーク計画段階で行われた事前活動について教えてください。(複数回答可)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛好者とのワークショップ</li> <li>・既存スケートパークへの視察</li> <li>・専門家とのワークショップ</li> <li>・地域住民へのアンケートや説明会</li> <li>・周辺の騒音調査</li> <li>・愛好者のボランティア活動への参加(地域清掃など)</li> <li>・その他</li> </ul>
Q11	<p>管理・運営側からの施設&lt;立地&gt;評価はいかがですか? (+評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足</li> <li>・やや満足</li> <li>・どちらでもない</li> <li>・やや不満</li> <li>・不満</li> </ul>
Q12	<p>管理・運営側が施設に対して感じる「公共性」についてお聞かせください。(複数回答可)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛好者が着実に増えている</li> <li>・幅広い世代間の交流が生まれている</li> <li>・近隣でのトラブル・苦情が減少している</li> <li>・地域の活性化に貢献している</li> <li>・若者の行政への理解が進んでいる</li> <li>・他地域の利用者が来場している</li> <li>・特定の利用者しか利用していない</li> <li>・その他</li> </ul>

Q13	公共事業として評価いただけますか。(+評価の理由)
	・満足
	・やや満足
	・どちらでもない
	・やや不満
	・不満
Q14	スケートパークに関する新たな事業がございましたらお聞かせください。
	・既存施設の改修
	・セクションの追加
	・新設
	・既存施設の廃止
	・検討中
	・未定
	・その他



別添資料1 2023年 公共パークアンケート《その他の少数回答一覧》 回答は順不同 全15ページ

6.1.6 施設分類



6.1.6 施設分類 / その他

1	総合公園
2	河川敷（河川水辺公園の一部）
3	県の施設で都市公園。様々な施設が複合する総合公園
4	港湾緑地の一部
5	大規模災害時の物資集積場として利用
6	緑地の一部
7	港湾施設
8	調整池の有効活用（雨水貯留時は使用不可）の一環として場所提供
9	都市公園法上の運動施設

6.3.1 パークの設置理由

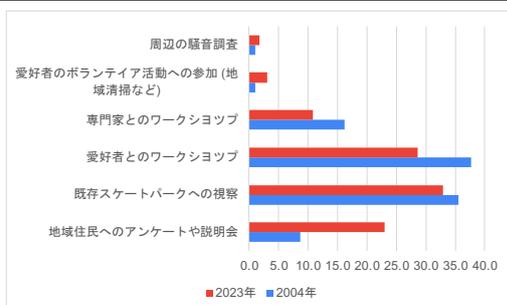


6.3.1 パークの設置理由 / その他

1	既存の公園施設を改築後も継続。
2	江東区民である堀米選手がオリンピックで金メダルを取得したことを契機に新設。
3	公園開設から20年近く経過し、樹木の生育も悪く、工場・事務所等が多く立ち並ぶ一角に位置していることもあり、平成13年頃からゴミの不法投棄場所と化し、一般の利用者はほとんど無くなったため、スポーツ施設モデル公園として再整備することとした。
4	普段あまり公園を利用しない若い世代にも愛される公園にするため。
5	プール施設跡地の有効利用。
6	別公園に新しいテニスコートが整備され、使用頻度が減っていたコートを有効利用するため、スケボー愛好家がデッキを持ち込み設置したのが始まり。
7	公園の安全な利用のため。

6.3.1 パークの設置理由 / その他 (つづき)	
8	老朽化した公園施設を更新するための長寿命化計画を立てる時期と同時期に要望が出たため。
9	議会での要望。
10	当時担当した既退職職員に聴取したところ、運動公園は「将来的なニーズを見据えて」設置した旨回答を得たが、園内一施設に過ぎないスケートエリアについて個別の理由は不明である。
11	駅前広場等の禁止区域でのスケートボードによる迷惑行為を解消するため。
12	区画整理事業による新たな公園整備。
13	公園整備前における住民説明会の中で要望あり。
14	調整池の有効活用（雨水貯留時は使用不可）の一環。
15	市内にスケートボードを行える場所がないため。
16	地元スケーターからのニーズがあったため、街なか広場開設に合わせて整備した。

### 6.3.2 計画段階の事前活動

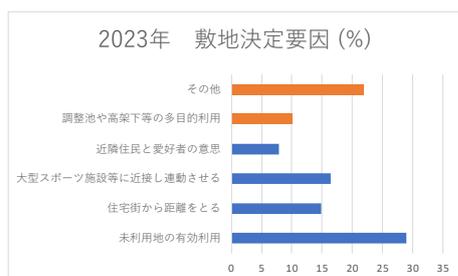


### 6.3.2 計画段階の事前活動 / その他

1	愛好者による署名活動
2	行政側が調査
3	調整池の管理担当課との調整等
4	利用者のヒアリング
5	総合公園（野球場や多目的広場等）の一部であるため行っていない
6	(地域) にてクラウドファンディングを実施
7	区画整理事業により造成され、市へ移管された公園であるため、経緯は不明
8	ローラースケート場を活用したスケートボード利用状況調査（3か年）
9	地元自治会への事前説明、有識者等で構成する委員会による業者選定
10	プロスケーターに相談
11	スケートパーク実態調査
12	専門業者に相談
13	ストリートスポーツパークを有する他都市へのアンケート調査
14	元プロ選手や若者への聞き取り

6.3.2 計画段階の事前活動 / その他 (つづき)	
15	河川管理事務所等、関係機関との協議
16	スケートパークの建設を求める請願書の提出を受け、(地元)協会と施設についての要望の聞き取りや打ち合わせを行った。
17	整備にあたっては(独)都市再生機構による直接施工としたため詳細は不明だが、愛好者や専門家の意見を聞く場についても設けていたと思われる。
18	当時担当した既退職職員に聴取したところ、運動公園は「地域住民へのアンケートや説明会」及び「環境影響評価法」に基づく活動を行ったとの回答を得たが、Q8同様スケートエリア個別の理由は不明である。
19	日本スケートボード協会の監修依頼
20	スケートボード利用者の代表者と協議
21	既存のスケートボード場がある市町村へのアンケート
22	愛好者との協議
23	専門家を入れた検討会を実施

### 6.3.3 敷地決定要因

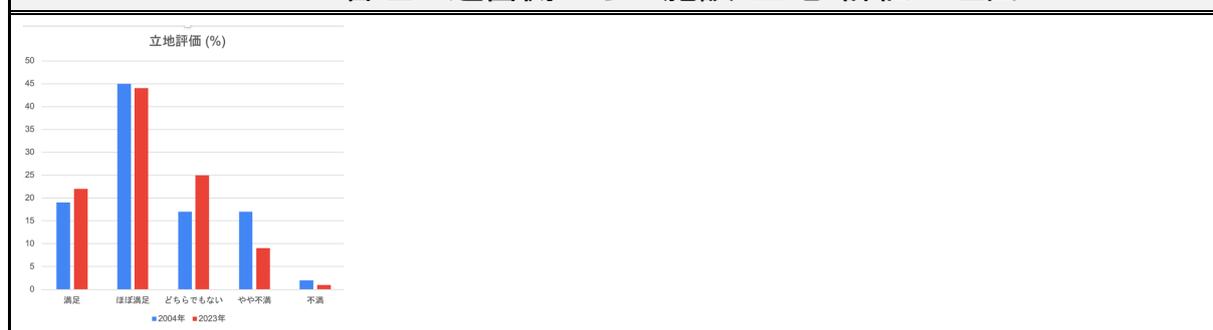


#### 6.3.3 敷地決定要因 [今の場所に決めた理由] / その他

1	最終処分場跡地の有効活用
2	行政から場所の提供があり、セクションを配置
3	行政側の決定
4	隣接する中学校による運動施設利用の要望
5	老朽化施設跡地利用
6	県民参加型のエリアを公園内に作ることになり、ワーキングチームを作り実現した。
7	(地域) 中央土地区画整理事業地内の調整池の有効活用として整備
8	○新幹線○駅に近接する公園であり、多くの人に利用してもらえる可能性のある場所であったためと考えられる。
9	河川敷の有効活用及び交通の利便性 (JR 駅の近隣)
10	都市公園内に設置することでより多くの方に利用してもらいたいため
11	区画整理事業により造成され、市へ移管された公園であるため、経緯は不明
12	総合公園に隣接する用地を利用
13	区画整理事業により造成され、市へ移管された公園であるため、経緯は不明
14	総合公園に隣接する用地を利用
15	公園の移転に伴い、公園の一部に若者のための施設を整備することにしたため
16	敷地 (公園) 所有者が○市

6.3.3 敷地決定要因 [今の場所に決めた理由]/ その他 (つづき)	
17	緑地計画の一部
18	新規公園整備及び周辺公共施設と連携活用するため
19	公園内の歩行者に迷惑がかからないように
20	耐震・旅客船岸壁の背後施設として、大規模災害時に物資集積場として利用する。
21	河川敷を有効活用
22	市街地から近いが、近隣に民家がないため
23	既存施設の改修
24	元タスクートをするための施設があったため (アスファルト舗装のみ)
25	市内外からのアクセス性に優れ、各種スポーツやレクリエーションの機能を有する総合公園であり、駐車場を有していたため
26	県施行の産業団地整備事業に伴う市からの要望
27	当時担当した既退職職員に聴取したところ、運動公園は「未利用地の有効活用」及び「近隣住民の意思」によるものと回答を得たが、Q8同様スケートエリア個別の理由は不明である。
28	既存施設の活用
29	公園の魅力向上のため。
30	港湾施設の整備の一環として
31	住民説明会を開催し、了承を得たため
32	産業団地の造成に併せ、町からの要望を受け、調整池 (雨水貯留池) 内の高水敷きを利用し、整備した
33	埋立地の新興住宅街の公園整備に合わせて設置
34	国営昭和記念公園内の設置が実現せず立川基地跡地関連の地域まちづくりの中で検討
35	国体からの要望により駐車場の一部を改修した
36	騒音問題等に配慮ができ、総合運動公園 (スポーツ施設) 内である為
37	国体からの要望により駐車場の一部を改修した
38	過去の文書が保存期間を満了し破棄されているため、確認が取れない。
39	仮設で整備していたものを公園整備を機に公園施設として設置した
40	設置施設の規模を考慮し、当公園が適切と判断されたため

### 6.3.4 管理・運営側からの施設<立地>評価の理由



#### 6.3.4 <立地>評価 / 満足・ほぼ満足の理由

1	大規模災害時に物資集積場として利用しやすい。 駐車場がないため、路上駐車之苦情がある。
2	新函館北斗駅付近に整備されているため、交通手段も多いことから公園利用者が集まるから。
3	特に問題ないため。

6.3.4 <立地>評価 / 満足・ほぼ満足 の理由 (つづき)	
4	駐車場管理は一関市体育協会が指定管理している。 セクションは、一関市スケートボード協会が管理している。 評価は、一関市スケートボード協会によるもの。
5	公園中央部にあり、近隣住宅から距離があるため騒音苦情等がない。
6	仙台駅東口にほど近い総合公園である榴岡公園内に設置しており、立地条件としては良いため。
7	球場等を有する総合公園として管理が容易なため。
8	高速道路のSA、ICに隣接しており、県外からのアクセスが非常に良い。
9	マナーを守らない利用者があり、他の利用者から苦情が寄せられる。一方、他公園に無許可設置してあった簡易セクション類が撤去された。
10	無料の施設ではあるが、若者から高い評価をいただいている。初心者用の施設として。
11	周囲が主に田んぼのため、騒音被害による苦情がない。
12	近隣に住宅がなく、騒音等の苦情もないため。
13	駐車場が充実しており、市街地からも比較的近く利便性が良いため
14	健全な管理を徹底しており、利用者、行政、市民からの高い評価を得ている。
15	工業団地内に所在し、近隣住民とのトラブルなどがないため。
16	オリンピックをきっかけにスケートボードのニーズが高く、幅広い年齢層の利用者が利用しているため。また、周囲に住宅等も無く、騒音問題となるような場所ではないため。
17	多くの方に有効活用していただいていることが確認できるため
18	有難い事に利用者の方がご新規様・リピーターの方共に右肩上がりが増え続けているから。来園者の方の内訳も近隣にお住まいの方だけでなく、東北地区や九州など遠方からも定期的に来園して下さる事に強い満足感を抱いている。また、プロスケーターの方や大手スポーツメーカーの方が毎月講習会を開催して下さり、このご時世でも毎月二回のイベントを超過満員で開催できている。まだまだ課題や改善点が多い事は事実ではあるが、当スケート場建設の目的の柱であった新しいスケーターの誕生のきっかけとスケーター同士の交流の場の提供については、微力ながらお役に立てていると確信している。
19	騒音問題が多少あるものの、近隣住宅との距離を確保できている。
20	住宅地から離れているため、騒音の心配が無い。
21	ほぼ想定通りの効果があらわれているため。
22	市街地に位置し、様々な交通手段で訪れることができ、特定の利用者に限定されることなく、未利用地の有効活用という点で目的を達成している。
23	多くの方々にご利用いただいているため。
24	騒音被害が出にくい場所であり、見晴らしの良い場所であること。
25	渋谷駅の近くで客数が多いが、規模が小さいため固定客がつきづらい
26	利用者が使いやすく、近隣住民も少ない。ただし開発により駅からのルートに人出が多く、スケボーに乗って移動する人がいるので苦情につながりやすい。
27	一般的な利用の範囲であれば、苦情等がないため。
28	初心者から上級者まで利用できる施設のため。
29	近隣住宅地とは距離があり騒音対策になっていること、公園管理者が常駐していること。
30	他の運動施設と連携し利用が図られ住宅からの苦情もない。
31	市外からも多くの利用者が訪れる施設となっているため。
32	山地に位置するため、騒音などの問題が発生しない。
33	施設建設により対外的に市のPR効果が得られているため。
34	住宅地から離れているため、騒音によるクレームが少ない。
35	近くに公園や行楽施設があり、今後スマートインターも近くに整備され、利便性の向上が図れる。
36	周辺住民からの苦情等もなく、円滑な運営ができている

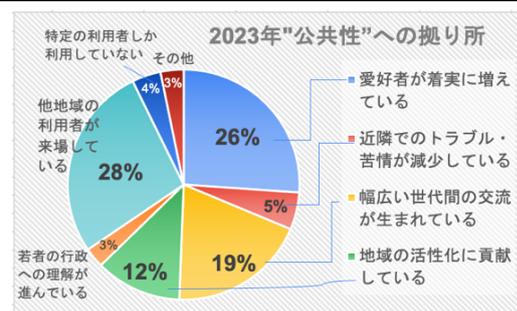
6.3.4 <立地>評価 / 満足・ほぼ満足 の理由 (つづき)	
37	都市公園内の運動公園に内に在るが、比較的市街地近隣に近い。しかし近隣住宅地からは100m程離れている。
38	駅前からのアクセスが良く、交番が近い治安が保たれている。
39	河川敷を有効活用できている。
40	利用者に好評であると認識しているため。
41	廃校の利活用、他サイクル事業との連携、地域住民の理解。
42	調整池の利活用になっているから。
43	様々な年代が多様な活動(スケートボード、BMX、インラインスケート、ごみ拾いなど)を行っているため。
44	既存の公園でスケートボードを実施していた人が施設を利用するようになり、既存の公園利用者の苦情が減ったことに関しては満足しているが、郊外の施設であり、車を運転できない小・中・高校生などが未だに公園内で実施しているため。
45	騒音トラブルがなく、利用者からのニーズにも答えられているため。
46	ルールを守って楽しく利用していただいているため。
47	行政、近隣住民とのコミュニケーションは日本一取れている自信がある。
48	近くに民家が無い為、騒音のトラブルが少ない
49	騒音苦情等がない。
50	公園の敷地の有効利用につながっている。 公園全体の活性化につながっている。
51	公園の敷地の有効利用につながっている。 公園全体の活性化につながっている。
52	利用者からのアンケート調査によりおおむね好評であったため。
53	当初の目的通り、土日だけでなく平日も多くの方が賑わう施設となっているから。 また、常駐する管理者もおらず、終日解放されているが、大きな事故もなく利用いただいているから。
54	大きなトラブルがなく、運営できている。
55	交通の便が良いため。
56	よく利用されているため。
57	市役所から近く、市街地からも離れているため騒音などの苦情がないため。
58	騒音等の苦情もなく、役場からも遠くない場所に位置し、管理上も支障がない。
59	大型スポーツ施設と隣接しており管理者の目も届きやすい。
60	一部の愛好者によるルールやマナー違反がある。
61	一定の需要があるため。
62	管理がしやすく、利用者からの問い合わせもあり、夜間の使用もあるため。
63	他の体育施設に隣接していること。
64	安並運動公園内の一部であり、他施設との一括管理が可能であるため。
65	周辺に住環境がなくクレーム等が発生しない
66	スケートボード利用に対する苦情(騒音トラブル)などがなく、適切に利用されているため。
67	住宅街、住宅密集地から離れているため騒音等に対する苦情が少ない。
68	日奈久インターに近く、アクセスしやすいため。
69	住宅街に設置されており連日利用者がいるが、ある程度距離があり大きな苦情もないため。
70	他の公共施設と隣接しているため。
71	他団体より貸切のイベント要望があり、実際に実施している為。

6.3.4 <立地>評価 / 満足・ほぼ満足 の理由 (つづき)	
72	ボールエリア、ウッドデッキエリア、フラットエリアの面積も広く充実しているため。管理者側で、受付スタッフ常駐及び監視員を巡回させ、「安心」「安全」なスケボー広場になっているため。
73	施設の利用状況や大会・イベントの実施状況、地域への波及効果等は開園初年度としては満足しているが、利用者の快適性向上やアクセスの充実など、まだまだ改善すべき部分はあると感じているため。

6.3.4 管理・運営側からの施設<立地>評価の理由	
6.3.4 <立地>評価 / どちらでもない の理由	
1	スケートボード場が郊外に位置しているため、中心部に施設を設置してほしいとの要望がある。
2	アクセスはしやすいが駐車場が無い公園のため路上駐車が散見される。
3	立地的に騒音は気にならないが、施設の劣化が進んでいる中十分な整備が出来ていない。
4	利用者がいないため。
5	公園内の立地は管理棟から目視でき、受付も管理棟からできるが、公園の立地は週末にバス運行がなく不便である。また管理するうえでスケートボードの知識も求められるため担当が必要であるため。

6.3.4 管理・運営側からの施設<立地>評価の理由	
6.3.4 <立地>評価 / やや不満、不満 の理由	
1	市民団体が設置しているセクション等の老朽化や、不要資材等の残置が課題となっている
2	企画担当部署と工事担当部署の連携が不十分で舗装などの仕上がりが不満
3	①開設時にあった駐車場が道路整備のため身障者用1台のみとなっている（現在新たに駐車場を整備中）。また、最寄り駅から徒歩30分以上かかるため、路線バス等を使用する必要がある。 ②民家が隣接しているため、路上駐車やゴミの放置などマナー違反に関する苦情が寄せられる。
4	住宅が近くにあり苦情が多く寄せられている
5	中心市街地から、距離が離れているため。
6	スケートパーク専用ではなく、多目的な競技が可能な広場であり、譲り合いでの利用をお願いしながら運用している状況。利用者間のトラブルなどのクレームが寄せられることが多い。また、施設の老朽化も顕著になってきている。
7	設備が老朽化しているため。
8	河川敷にあるため、ほぼ毎年水害の影響を受けている。
9	河川敷の護岸に設置されており、年に数回冠水があるため、硬化した汚泥の除去等の管理が必要である。
10	管理者から目の届きにくい位置にあるためかゴミの放置や利用時間外に侵入しての利用などがあるため。
11	利用者のマナー（ごみ処理等）。

### 6.3.5 “公共性”への拠り所



#### 6.3.5 「公共性」への拠り所/ その他

1	需要がオリンピック競技による一過性のものではないのか、公共施設としてどこまでの整備が必要なのか、判断が難しい。
2	使用者もいないため「公共性」は感じられない。
3	スケートパーク内でスケートをする様になり、他の場所でスケート等をしなくなりトラブルも減少した。
4	利用者統計、満足度調査など実施しておらず、園内一施設として個別に感じる点はない。
5	利用者の拡大等が進んでいないように思われる。
6	統計はとっていないが、東京オリンピックもあり利用者は増えていると思われる。

### 6.3.6 管理・運営側が感じる“公共事業”としての評価

#### 6.3.6 “公共事業”として評価 / 満足・ほぼ満足の理由

1	幅広い年齢層が利用していること。また、公園内で歩行者との住み分けができて苦情が減った。
2	幅広い年代の方が利用している。
3	他府県からも利用してもらっており賑わいがあるため。
4	施設(アイテム)の利用者による自主管理や清掃活動などがみられ、良好な利用がなされているため。
5	定期的に行行政、近隣住民との話し合いを18年間続けている。
6	民間に比べ利用料金が安い。
7	行政だけでなく、市民団体も運営主体となっており、使う側の視点を入れることで実際に使われる公園となっているため。
8	交流人口の拡大が図られているため。
9	ボランティア団体も設立され、行政だけでなく、市民協働で維持管理を行えている。
10	利用者の少ない施設を改修し、碧南市の新たな魅力を創出できたため
11	多くの利用があるため
12	愛好者が増えている為。
13	スケートボードパーク整備に向け調査研究の対象となるため
14	山の中に設置した施設であるため、苦情もなく利用者も安心して利用している。
15	公園内の禁止エリアでの滑走がほぼなくなり、パーク利用者間の交流も生まれているため。
16	駅や市役所前などでスケートボードをしていた者がいた為、苦情が寄せられることがあったが施設開所後は少なくなった。また、愛好者で施設を維持管理していることもあり、世代間の交流も生まれた。
17	東京オリンピックを景気に更に利用が増えた。任意の団体による管理等により利用者間の交流も図れている様子
18	廃校の利活用による地域の活性化・新しい価値の創造、幅広い年齢層のアーバンスポーツ愛好者への遊び場の提供等に寄与しているため。

6.3.6 “公共事業”として評価 / 満足・ほぼ満足の理由 (つづき)	
19	公共団体が設置したパークでは設置当時最大規模のものであり、スケートパークへの理解が進んでいなかった当時としては革新的な施設だった為注目度も高かった。
20	無料で利用できるスケートボードパークとして県外からの利用者も多く、愛好者の集いの場となっており、広く吉川市を知ってもらうきっかけになっている。
21	利用者の河川敷ゴミ拾い等のボランティア活動に繋がっているため
22	当初想定した以上の来園者があり、大会やイベントも好評で人気のあるスケートパークになっている。
23	幅広い世代や他地域からの利用もあり、平日職員が行った際にも最低10名程度、土日に関しては、約100名程度の利用者がいる公共施設となっている。また、利用者間でコミュニケーションも発生しており良い関係が構築されている。
24	冬期間を除き、幅広い期間中、多くの方に利用されている。
25	子供から大人まで幅広くご利用いただいているため。
26	一定の需要があるため。
27	世界大会の会場として利用されることもあり、若い世代をはじめ様々な方に幅広く利用いただけていると感じているから。
28	利用者が安価で気軽に利用できるため
29	統計等とはっていませんが、利用者が一定数いるため、利用者のニーズに即していると考えられるため。
30	公園にある遊具のような位置付けであり、利用者だけで完結している
31	毎年30000人以上が利用する施設となっているため
32	市を訪れる方の増加、市民の健康づくりや新たな交流の場となっている。
33	近隣住居が少ないという立地条件に助けられている部分もあるが、近隣住民の方からの理解は得られている。利用者の方のモラルが高い事が一番の要因ではあるが、管理人を配置している効果も手伝い、セクションの取り合いや他の地域の無人スケートパークで起こったトラブルは発生しておらず、レンタル用品の用意もある為、特に初心者の方には「安心して利用できる。」というお言葉を頂いている。また、プロスケーターの方にイベントを開催して頂いているお陰で埼玉県外の方にも沢山ご来園頂いている。お住まいの地域や年齢による料金の差はあるが、それ以外の部分に関しては、概ね公共施設として、平等に施設をご提供させて頂いていると感じている。
34	利用者様はルールを守って使用いただいているという点があるから。
35	地元愛好家との接点があり運営の相談役となっている
36	スケートパークが周辺になく、セクションもご利用者から高い評価を受けている。
37	県外からの利用者が増えたため。
38	特に問題がないため。
39	利用ターゲットとして想定した町民及び近隣住民に利用されていることや、近隣都市部の若年層が多く利用しており、アーバンスポーツを通じた地域資源のPRやまちづくりに関心を抱ききっかけとなっていると考えるため。
40	若年層を中心に幅広い利用者がいるため。
41	町内外の多数の方が利用している
42	町内外を問わずに幅広い世代からの利用があることなど。
43	当該施設は自由使用で無料となっているが、大きなトラブルもなく利用されている。
44	数年に一度の修繕工事や汚泥等の諸問題はあるが、騒音等の近隣住民からの苦情等もなく、利用者が自主的に定期清掃を実施するなどしており、概ね満足と評価できる。
45	利用者がたくさんいるため。
46	整備以降、皆様に広くご利用をいただいている。

6.3.6 “公共事業”として評価 / 満足・ほぼ満足の理由 (つづき)	
47	市内唯一の公共パークであり、一定のニーズを満たした。
48	利用者に場の提供ができています。
49	初心者から中級者程度の方の利用を中心に考え設計し、種々の施設を適宜配置することで、利用者が楽しみながら技術の向上が図れる構成になっており、子供から大人まで幅広い年代が利用可能な施設となっている。
50	公園管理者が主体となって定期的にイベントを実施するなど、施設を活用できているため。
51	調整池の役割だけでなく、公園としての機能も担っているから。
52	利用者だけでなく、他の体育施設を利用する人にも知ってもらえる。
53	愛好者の方々は喜んでおり、他の施設利用者との大きなトラブルもないため。
54	老朽化により使用を中止していた既存施設をスケートパークに改修したことで、公園利用者が増加した。
55	気軽にストリートスポーツを行える場所を提供できているため
56	当施設は無料で誰でも利用することができる公共のスケボー施設であり、近年、オリンピック種目になったことで注目度が高まり、利用者は増加傾向にあるため。
57	当スケートボード場は、誰もが自由に利用可能となっているため、直接的な利用者数の確認を行っていないが、普段の利用を見る限り、市内外を問わず初心者から上級者まで幅広く利用されているため。
58	地域の活性化に貢献できていると考えているため
59	幅広い年代や他県の利用者も増加しているため
60	スケートボードを他公園では禁止しているが、当該施設があることにより利用者を案内することができる。
61	下妻市外、茨城県外からの利用者が多数いるため。
62	市内で唯一のスケートボード施設を有する都市公園であり、オリンピックをきっかけにニーズが高く、幅広い年齢層の利用者が利用しているため。
63	①他の公園や施設等からの一般市民や利用者からの苦情が減った。②公園としての利用者が増加した。③地域の特色として国際交流の場になっている。
64	市内でも唯一のスケートボード施設として連日多くの利用者がいるため
65	新しいスポーツに対する場の提供になっている。スケートボード、BMX、インラインスケート等の普及発展の場の提供になっている。
66	幅広い地域・年代の人たちが集い、憩いの場、賑わいや広域的な交流の場として活用されているため。

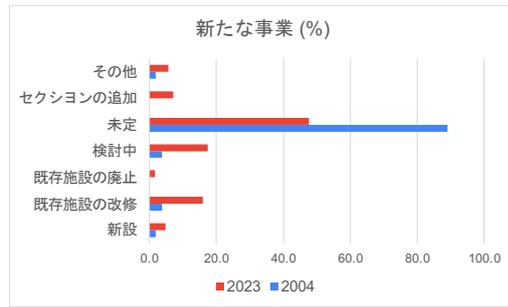
6.3.6 管理・運営側が感じる“公共事業”としての評価	
6.3.6 “公共事業”として評価 / どちらでもない理由	
1	利用する人が限定的なのでどちらでもない。
2	改善の余地があるため。
3	来年度より本格的な利用状況を調査するため。
4	施設としては暫定的なものであり評価するには時期尚早であるため。
5	設置当時から利用者は多いが、過去には近隣住民からの苦情などもあり、どちらでもないとして評価した。
6	スケートパークに関する反響の声がないため。
7	スケート場単独で評価できる点はないが、公園内のその他施設との複合利用の効果はあるため
8	利用者による落書き被害やごみのポイ捨て、路上駐車による近隣からの苦情等の問題があるため。
9	地域の活性化に貢献しているが、周辺施設の破損やマナーの悪い利用客による悪影響がある。

6.3.6 “公共事業”として評価 / どちらでもない理由 (つづき)	
10	新設されて二か月目なので、まだ周知の段階であること。
11	一般の公園として管理しているため、整備が追い付かない。
12	設置要望には応えられているが、公園利用者やスケートパーク利用者同士のトラブルが絶えない。
13	利用者からは満足いただいているが、老朽化により維持管理費が増加してきており今後も同規模で維持できるか不明。
14	無料開放しているため地域の人からは喜ばれているが、マナーの悪さなど苦情もあるためどちらでもないとした。
15	近隣の市町村になく民間施設も少ない中、専用の施設を整備し、スケートボード利用者をそちらに誘導することで公園の安全性を確保し、また公園利用の幅を広げたことについては、公共事業として問題ないと考えている。一方で利用形態が特定の競技者に限られる施設であり、無料開放しているがための利用時のマナーの悪さ(落書きなど)や、破損したセクションの更新費用の確保の問題から、民間で有料施設として整備し、施設管理者を常時配置することで利用者のマナーを徹底しつつ、料金収入で維持管理すべき施設であるとも考えるため。
16	地元の有志によりスケートボードの無料講習会が開かれ、他都市からも参加利用があった。利用者は20～30代がほとんどであり、40代以上の利用がない。
17	自治体が施設を無償提供しているため。
18	利用者の満足度がわからないため。
19	利用者統計や満足度調査を実施しておらず、評価できない。
20	初期整備のセクション2基以外は、市民団体の公園施設設置申請による物件であり、行政側としては適正な施設維持管理と継続的な活用を申請者に求めるところ。
21	利用者の要望に応えられる面がある一方で、パーク周辺でのスケボー利用による騒音や近隣施設等への被害の発生、地域と利用者との相互理解などの課題も生じている。

### 6.3.6 管理・運営側が感じる“公共事業”としての評価

6.3.6 “公共事業”として / やや不満・不満の理由	
1	行政は場所の提供のみ。
2	老朽化しているが修繕などを行えないため。
3	施設が作られた当時はニーズがあったのかもしれないが、現在では利用者がいない状況であるため。
4	一部の利用者のマナーが悪くトラブルにつながっている。
5	特定の利用者しか還元されていない。施設の修繕に必要な費用が高すぎる。
6	公共事業として行うメリットが感じられない。

### 6.3.7 パークに関する新たな事業



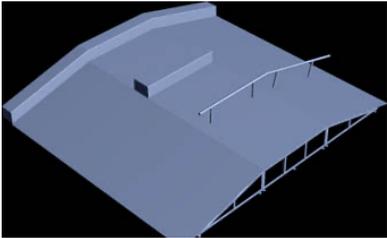
#### 6.3.7 パークに関する新たな事業

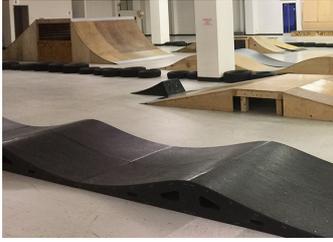
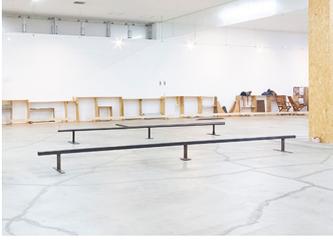
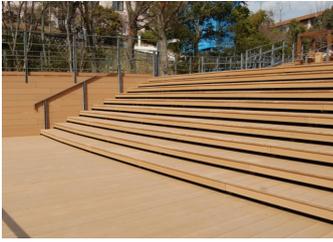
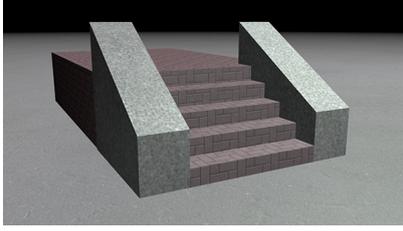
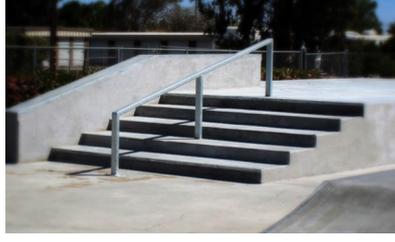
1	新しい施設のため、施設の維持
2	2024年オープン of 京都市左京区のパークを監修中
3	パークの維持管理、イベントの開催など
4	駐車場の増設
5	マナー啓発として、ヘルメット着用を促すイベントをボランティア団体が主催となって実施
6	スケートパークを含む公園全体のリニューアル(R6春頃予定)
7	隣接地に初級者用パークの増設
8	運用終了
9	路面補修実施予定
10	既存施設の改修を検討中
11	別部署・別施設での新設

特徴/ご意見など (順不同)	
※差し支えないと考えられる範囲で、パークが特定できる情報をそのまま残しております	
1	開設当初は他地域からの来場者が多く見受けられた。
2	設置されているセクションはパークの広さや形状に合わせて木材等を使用して製作したものがほとんどであるという特色をもつ。
3	無料で開放しており、他地域からも利用者がある
4	当パークは、K. SK. A 京都市スケートボード協会のボランティア活動及び、火打形公園管理委員会にて運営管理を行っている。2004年当時では珍しいコンクリートパークで、日本のパブリックパークのパイオニア的パークである。18年間、このパークには数々の素晴らしいドラマがあり、メディアにも何度も取り上げられてきている。
5	国内最大級の広さ
6	屋内型のスケートパークであり海外・県外の利用者が天候に左右されずに利用（合宿開催）できる。
7	初心者、子供に優しいスケートパークです。県外からもリピーター多数。
8	海に面する立地のためロケーションが良い。24時間無料オープンであること。
9	公園併設の無料施設のため、誰でも自由に利用できる。
10	FRLあり。土日祝日には、県外からも多くの利用がある。
11	無料で使用できるため、他地域からも多く利用者が来訪している。
12	利用者（愛好者）が自分たちで維持管理している。
13	特徴：全国的に珍しいクレイドルボウルがある。  現在アーバンスポーツの人气が高まり、スケートパークの新設を行う公共団体が増えている。スケートボードについては、カルチャー・スポーツ・ファッション等様々な側面を持ち、愛好家の目的も様々である。安全を確保してもらうためにヘルメットや防具の着用などをお願いしているが、守って利用してもらえるのはキッズくらいしかいない。管理をする側としては、安全管理を第一に考えているが、どうしても危険と隣り合わせのスポーツの為、救急搬送を行う場合もある。当スケートパークは管理人を常駐させているが、小規模のパークなどは管理人がいない場合がある。そういったパークで迅速な怪我への応急処置が行えず、死亡や重度な怪我が発生しないか不安を感じる。今後スケートパークを新設する公共団体においては、安全面を確保できる体制を整えてほしい。
14	自治体での整備が先進的であるため、県外からの利用者も多く、長く親しんで頂いている。
15	施設内でスケートボードを行う利用者は一定のマナーの良さがあるが、他公園では施設を破壊するため禁止としている箇所もあり、注意喚起では限界もあるため、業界、個人のマナー意識の向上が望まれる。
16	利用者間でルール設定やゴミ拾い等の管理が徹底されている
17	バーチカルランプがあること。日本代表チームコーチ早川氏の監修であること。
18	6ftのミニランプがある。
19	県内をはじめ、隣県からの利用者も多い。
20	初心者用の施設として定着している。気軽に無料で使うことができる。

誇れる特徴/ご意見など (つづき)	
21	公園のコンセプトが「市民と協働でつくり続け、進化し続ける公園」であり、計画段階から市民の方々と検討を重ね、意見を取り入れながら整備を進めてきた。整備後も、公園ボランティアの「みなとのもり公園運営会議」が中心となって、よりよい公園を作るため、管理運営に取り組んでいる。
22	地元の利用団体が区の許可を得て可動式のセクション（キッカー、レールなど）を設置している。近隣住民への配慮として、夜間は閉鎖している。
23	フラットが多く、初心者～上級者まで利用できるパーク。
24	誰でも自由に利用が可能。
25	国際的な競技会も開催された「くげぬまコンビプール」（パークコース）設置。
26	公設では新潟県内初となる屋外全面コンクリート製のスケートパーク。
27	他のパークに無いレアな複合バンクなど多彩なセクションを備えた県内最大級のパーク
28	開園前から、プロスケーターやスポーツメーカーの方とスクラムを組んでスケボー人口の拡大の為に邁進してきた。その後も毎月イベントを開催して頂いているお陰で、実力差にとらわれず、初心者もビギナーも声をかけあえる素晴らしいスケボー独自のフレンドシップ文化が芽生えている。セクションに関しては、お茶碗状の回転コースのボウルが他のスケート場にはないようで、特にご好評を頂いている。また、他のセクションに関しても、毎月プロスケーターの方に確認をお願いした上で維持を行い、修繕が必要な場合にもプロスケーターの方と相談して対応している。
29	特にレアなセッションは無いが、無料ということで東京オリンピック以後利用者は増えた。
30	インターチェンジから近いため、高速道路を利用して来園いただく方もある。
31	設計にはスケートボード愛好者らの意見も取り入れ、「初心者に優しいつくり」「自然との調和」「スケーターだけでなく誰もが訪れやすい場所」の3点をコンセプトとして、緑地や花壇、木々などをパーク内に設置するとともに休憩用のベンチも設置しており、利用者が自然を感じ、やすらぎの空間の中でプレーを楽しむことができる。 また、特徴は、フルコンクリート製で四国内では最多となる25基のセクションを配置しており、初心者から上級者まで滑走することが可能な施設となっている。
32	市内の中心部にある。
33	他地域からの利用者がいる。
34	南九州西回り自動車道日奈久ICからアクセス良好なため、他市町村からの利用者も来園する。
35	お子さまから上級者まで楽しんでいただけるよう、北海道唯一のパンプトラック（うねうね）を作りました！
36	リニューアルした後に、他都市からの問い合わせが多数。
37	他地域からも利用者がある。
38	アットホームなパークで幅広い年齢層に活用されている。 県内はもちろん県外からも利用者がいる。
39	岐阜市の代表的な自然である金華山や長良川のすぐ近くに位置しており、自然を感じながら利用できる。

誇れる特徴/ご意見など (つづき)	
40	練習スペース, 回遊できるスペース, 直線的なスペースでゾーンを分けており, 利用動線が交差せず, スケートボードが周囲へ飛び出す機会を減らせるようにしている。また, たまり場をいくつか設けることで, 休憩や回避が自由に行えるようにしている。
41	街中にあり, 利便性が良い。 面積的には狭いが, 利用者間でのトラブルは少なく, スケーター自身が上手に使用していこうという意識が高いと思われる。
42	改修前の園路・広場の形状や高低差, また, 既存の植栽や休憩施設を活かしたセクション配置とすることで, パーク内の回遊性を高めるとともに, 景観に配慮している。
43	他地域からの利用者がある。
44	愛好家と話し合いをしながら設計されたパークであるため, 行政が単独で設計したものとは異なり, 愛好家から滑りやすいと好評である。 また, オリジナルセクションが設置してあることも特徴である。
45	初心者から中級者程度の方の利用を中心に考え設計し, 種々の施設を適宜配置することで, 利用者が楽しみながら技術の向上が図れる構成になっている。近隣市町からの利用者や, 子供から大人まで幅広い年代の方にご利用いただいている施設。
46	※パーク終了の経緯について パーク運営団体と協議を行ったが, 使用料や運営団体の体制整備等で合意に至らず開放終了となったもの。
47	駅周辺にあるため他地域の利用者が多いことが特徴で, 愛好者が何度かイベントを開催している。
48	・中上級者向けだけでなく, 初心者向けのパークもあること ・第1パークが阪和自動車道高架下にあり, 騒音に関する苦情がないこと
49	利用料無料, 入場制限なし。
50	無料施設であること。
51	課題が多いが, 施設設置からこれまで, 利用団体との協力による運営を行ってきた点が特徴だと思われる。
52	西日本最大級です。県内はもちろん, 香川県, 兵庫県, 大阪府など多くの方にご利用いただいている。
53	本市の特徴でもある国際色豊かな地域(米軍佐世保基地入り口のすぐそば)に整備しており, 利用者同士で国際交流の場となっている。利用年齢層は幅広く, 世代間交流にもつながっている。西九州自動車道佐世保道路の高架下を利用したエリア(ネクソ西日本に占用許可を受けて整備)で, 現在4車線化工事のためR4, 8より閉鎖中mR5. 5再開予定ですが, 駐車場は工事の影響でR7まで台数制限中, 開設以来, 利用者は増加しており, 閉鎖前より拡張の声が利用者より相次いでいる。
54	・横浜市内で最大の面積。 ・立地条件が良いため他の地域からも利用者が多い。 ・利用人数が多いが, 利用者同士譲り合ってスケボー広場内を利用している。 ・スケボー広場内にあまりごみが散乱していない。
55	・最高水準のパークゾーン, ストリートゾーン ・充実した附帯設備(管理棟, 屋内ゾーン, 夜間照明) ・スタジアム型の観覧できる広場

ボックス	マニュアル台	カーブ
 <p>箱型のセクションのこと。大体どこのパークにも 1 つは置いてあり高さも長さも様々。スライドやグライドの基本練習に最適。</p>	 <p>マニュアルの練習に最適な低いボックスセクション。オーリーで軽く飛び乗りマニュアルでライド。</p>	 <p>四角形の箱の両端にコーピングが付いたセクションで、カーブトリックが練習しやすいように作られている。グランド、スライド系のトリックに使われる。</p>
テーブル	ランプ	アール
 <p>ピクニックテーブル型。</p>	 <p>両側がアールになっているセクションのこと。大きさによってミニランプやメガランプと呼ばれる。ノンブッシュでスケータリングし続けることが可能。</p>	 <p>湾曲の形状のセクションこと。またランプの湾曲部分を指すこともある。初心者にとって昇って降りるだけでも難しい。</p>
バーチカル	スパイン	バンク
 <p>垂直という意味で、アール部分が垂直になっている大型のランプを指す。X ゲームでは「バート」という名称で競技種目となっている。大きなエアなど大迫力のスケートが展開される。</p>	 <p>アールの背面を合わせて作られた形状。英語のスパイン (spine) には、魚の背骨の意味があり、エッジ部分のコーピングが背骨のように見えることから名づけられている。アールの頂点にプラットフォームがないため、乗り越える際の難易度も高め。</p>	 <p>坂のように傾斜したセクションのこと。傾斜全般のことで、英語の「bank slope (傾斜)」が略されてバンクと言われている。スタートやターンなどをするための、コースの端に設置するセクション。基本的にはバンク to バンクより傾斜角度が急で、フラットバンクと呼ばれることもある。勢い良く滑り上りオーリーすれば大きく飛び出すこともできる。大きいものをディッチとも呼ぶ。</p>
バンク to バンク	モヒカン	ピラミッド
 <p>バンクとバンクの間にテーブル(平台)を置き、更にその上にボックスやレールなどを設置したセクション。</p>	 <p>バンク to バンクに設けられたレッジやレールを指す。パークの中央に配置されていることが多い。</p>	 <p>4 方向をバンクで囲んだピラミッドのような形のセクション。さまざまな角度からエントリーできる。</p>

ボウル	パンプ	コブ
 <p>地面にぽっかりあいた穴のようなセクションのこと。全体がアールになっており、上級者はスピーディーで激しいスケートができる。</p>	 <p>波状になったセクションのこと。一周回れるパンプトラックもある。</p>	
フラットレール		
 <p>棒状のセクションのこと。丸レールや角レールがあり、地面に置かれたものはフラットレールと呼ばれる。スライドやグラインドで使われる。</p>		
ステア	レッジ	ダウンレール
 <p>階段のこと。フリップなどで飛び降りる。最初は低い段数から練習して徐々に高くしていく。</p>	 <p>英語でレッジ(Ledge)は縁石。日本のスケボー用語でレッジは階段の脇についた縁石、またはスケートパークのステアやバンクの脇に設置されたカーブボックスのこと。レッジは階段に沿って傾斜がついたものや、まっすぐなもの、様々な形があるが、総じてレッジと呼ばれる。</p>	 <p>スケートパークまたはストリートのステアやスロープに取り付けられたレール。スケートボードのセクションの中で最も危険で難易度が高いセクション。</p>

**レール系** AN AR AS

**箱系** AK, AL, AM, BC

**山系** AP, AQ, AT, AU, AV, AW

**凸系** BA, BB

**階段系** AO

**大型系** AX, AY, AZ

【これらのアルファベットは[別添資料 5]Excel表の列名です】